

平成 12 年 9 月 8 日
貯蓄広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報サービス局)

「貯蓄と消費に関する世論調査」(平成 12 年)

1. 調査時期 平成 12 年 6 月 23 日 (金) ~ 7 月 3 日 (月)
2. 調査対象 全国 6,000 世帯 (世帯員 2 名以上の普通世帯)
3. 回収率 70.6% (4,235 世帯)
4. 調査対象世帯の抽出方法 層化 2 段無作為抽出法
5. 調査方式 留置面接回収方式

目 次

【調査結果の概要】	1
（要 旨）	1
・貯蓄の状況	2
1．貯蓄の保有状況	2
2．貯蓄の目的	4
・金融商品の選択	5
1．金融商品選択の選択基準	5
2．金融商品の選択に関する行動	6
（１）貯蓄を安全にするための行動と今後の対応	6
（２）現在の金利情勢を前提とした行動	7
3．元本割れリスクに対する認識と自己責任意識	8
（１）元本割れリスクに対する認識	8
（２）各種金融商品の選択における自己責任の受け止め方	10
4．金融商品選択に際しての情報の利用	11
（１）金融商品選択に関する知識やスキル	11
（２）過去２年間で金融商品の購入・購入検討のきっかけ	12
（３）購入・購入検討時の情報利用	13
（４）購入・購入検討に至らなかった背景	14
（５）金融商品や金融に関する情報源として望ましい媒体	15
・金融環境に対する認識	16
1．金融機関全般	16
2．取引金融機関の経営内容	16
（１）経営内容に対する受け止め方	16
（２）経営内容の確認	17
3．預金保険制度ほか各種セーフティネットの認知	17
・老後の生活	19
1．老後の生活への心配	19
2．年金に対する考え方	20
【BOX】	22
標本設計とサンプル誤差	22
平均値と中央値	23
【調査結果（単純集計データ）】	24

【調査結果の概要】

（要 旨）

・貯蓄の状況

本年の1世帯当たり平均貯蓄保有額は1,448万円と、前年(1,366万円)に比べて増加した。年間増加額の金融商品別内訳をみると、預貯金、生保・簡保、投資信託の寄与が大きい。

貯蓄保有世帯が貯蓄の目的として挙げている内容は、「病気・災害への備え」が最も多く、これに「老後の生活資金」、「こどもの教育資金」が続いている。なお、中期的なトレンドとしては「老後の生活資金」が上昇傾向にある。

・金融商品の選択

（金融商品の選択基準）

金融商品選択の際に最も重視していることとしては、引き続き「安全性」を重視するウエイトが高いが、ここ数年は「収益性」を重視する世帯が僅かながら増加。

（元本割れリスクに対する認識と自己責任意識）

元本割れリスクのある金融商品を保有もしくは保有経験のある世帯の4分の3が、実際の元本割れを経験。その結果について、「自らの相場予想が外れた」あるいは「自らの理解不足によるので仕方がない」と受け止める世帯が8割超ながら、金融機関側の説明や勧誘に起因すると考える世帯も15%強存在。

この間、金融商品の選択における自己責任の受け止め方は、全ての商品について、「自分で責任を持つのは当然」と考える世帯が前年調査比増加。

（金融商品選択に際しての情報の利用）

金融商品選択に関する知識やスキルについては、全体の半数前後の世帯が不足を感じている。

こうした中、過去2年間での金融商品の購入・購入検討のきっかけは、「金融機関の担当者等の勧め」が最も多く、金融商品を取り巻く環境変化の影響は現時点では限定的。また、購入・購入検討時に入手した情報そのものについては「満足している」世帯が「満足していない」世帯を上回っているが、正しい判断を行うのに必要な情報が「すべて入手できた」と思う世帯は「入手できていない」と思う世帯を下回っている。

・金融環境に対する認識

今後1～2年間の金融機関全般に対する評価は、前年調査に比べて「落ち着きを取り戻す」、「現状と変わらない状況が続く」が増加し、「さらに混乱する」との見方は減少。取引金融機関の経営内容に対しても、「健全だと思っているので、不安はない」が増加、「経営破綻もあるのではと、不安に思っている」が減少。

こうした中、預金保険制度を知っている世帯は、全体の4分の3を超えたが、本年5月の預金保険法改正による制度変更については、全体の半分以上が知らない。なお、投資者保護基金を知っている世帯は全体の3割弱、保険契約者保護機構を知っている世帯は4割弱。

・老後の生活

老後の生活を心配している世帯の割合は、引き続き高水準。心配している理由としては、「年金や保険が十分ではない」、「現在の生活にゆとりがなく、老後に備えて準備していない」が前年調査比増加。

また、公的年金・企業年金ではゆとりはないとの回答は、なお9割を占めている。その不足分をどのようにまかなうかについては、前年に比べて「貯蓄でまかなうつもり」が増加し、「働いてまかなうつもり」および「まだ先のことなので考えていない」が減少している。

貯蓄の状況

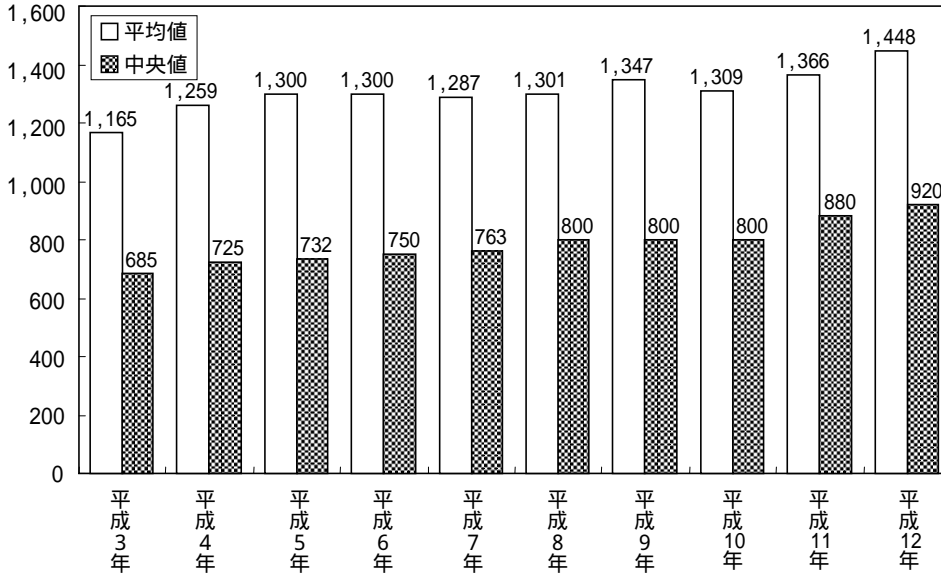
1. 貯蓄の保有状況

本年の1世帯当たり平均貯蓄保有額は1,448万円と、前年(1,366万円)に比べて増加した。年間増加額(+82万円)の金融商品別内訳をみると、預貯金(+26万円)、生保・簡保(+25万円)、投資信託(+18万円)の寄与が大きい。

また、貯蓄保有世帯の中央値は920万円と、前年(880万円)を上回っている。

今後については預貯金(除く郵貯)、個人年金、投資信託、株式等で、「より増やしたい」とする世帯の割合が上昇している。

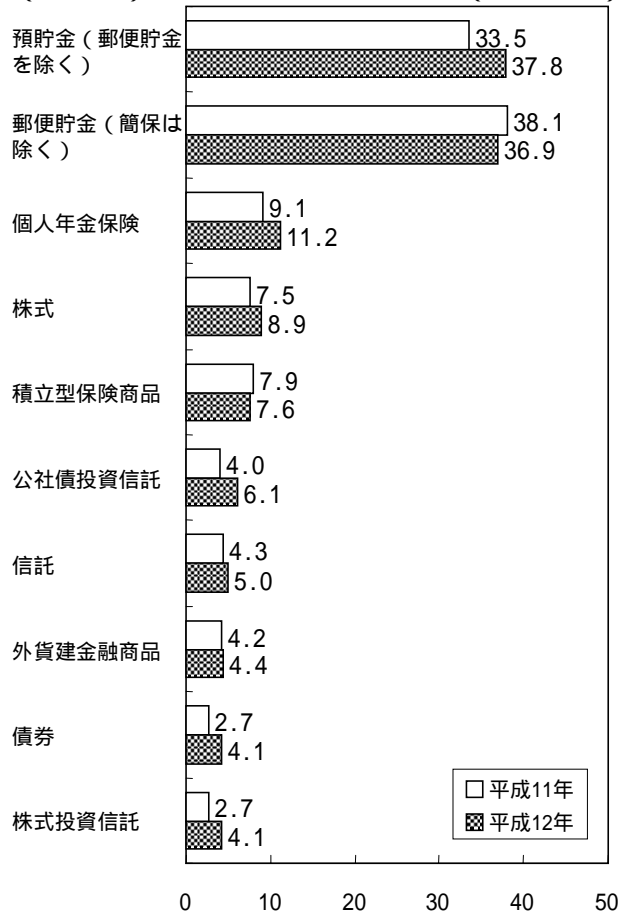
(図表1) 貯蓄保有世帯の貯蓄保有額<問3(a)>



(種類別構成比)

年	貯蓄総額 (万円)	預貯金			貸付 信託	簡易 生命 保険	損害 保険	個人 年金	有価 証券	債 券	株 式	投資 信託	財形 貯蓄	金融 商品 その他
		預貯金	民間 預金	郵便 貯金										
平成3年	1,165	51.1	37.3	13.7	6.0	18.8	1.9	2.1	16.0	2.1	11.1	2.8	3.0	1.2
4	1,259	54.7	39.6	15.1	6.0	18.2	1.6	2.1	13.6	2.1	9.3	2.2	2.7	1.1
5	1,300	50.2	35.3	14.9	6.4	19.8	2.0	3.5	14.4	2.5	9.5	2.4	2.9	0.8
6	1,300	51.6	35.5	16.1	5.9	19.8	1.8	3.5	12.8	2.5	7.9	2.4	3.2	1.2
7	1,287	53.8	36.6	17.2	5.4	20.0	1.9	3.9	11.3	2.2	7.0	2.1	3.2	0.5
8	1,301	55.0	36.8	18.2	4.2	20.2		4.6	11.8	2.1	7.6	2.1	3.0	1.2
9	1,347	56.1	37.7	18.3	3.8	21.0		4.8	10.3	1.8	6.8	1.7	2.9	1.1
10	1,309	57.3	36.7	20.6	3.5	20.9	2.1	4.4	8.2	1.5	5.7	1.1	3.0	0.7
11	1,366	57.2	38.5	18.7	2.6	20.1	2.1	4.8	9.7	1.5	7.2	1.0	2.9	0.5
12	1,448	55.7	36.3	19.4	2.7	20.7	2.3	4.8	10.6	1.3	7.1	2.2	2.8	0.3
平成12年の 実額(万円)	1,448	807	526	281	39	300	33	70	154	19	103	32	40	5
(前年差)	(82)	(26)	(±0)	(26)	(3)	(25)	(4)	(4)	(21)	(1)	(4)	(18)	(1)	(2)
うち外貨建て	10	3	3						7	3	0	3		0

(図表 2) 今後保有したい金融商品 (複数回答) < 問 4 >

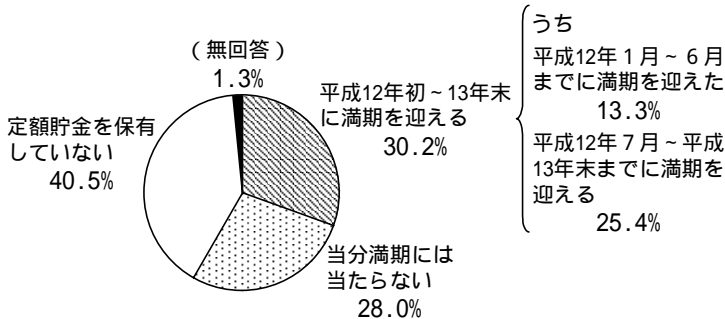


(参考) 定額郵便貯金の満期到来

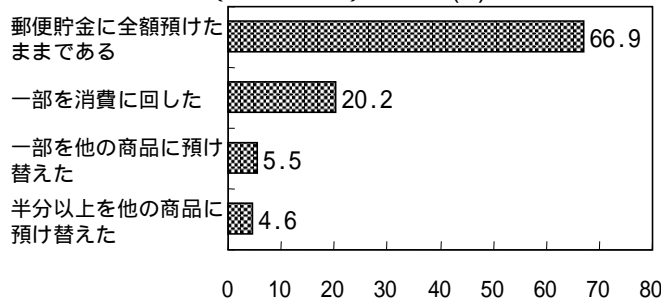
貯蓄保有世帯全体の3割が、本年初から来年末までに満期を迎える定額郵便貯金を保有(定額郵便貯金を保有している世帯の中では5割が該当)。

すでに満期を迎えた資金については、該当世帯の3分の2が「郵便貯金に全額預けたまま」とし、また、今後満期を迎える資金についても、該当世帯の6割弱が「郵便貯金に全額預けておくつもり」としている。

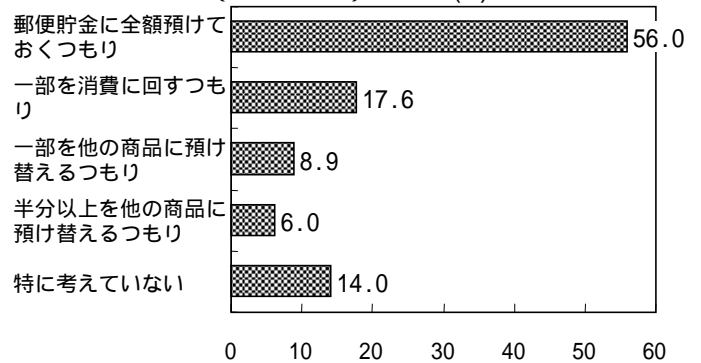
(参考図表A) 定額郵便貯金の保有と満期到来の状況<問5(a)・(b)>



(参考図表B) すでに満期を迎えた資金の行方 (複数回答)<問5(c)>



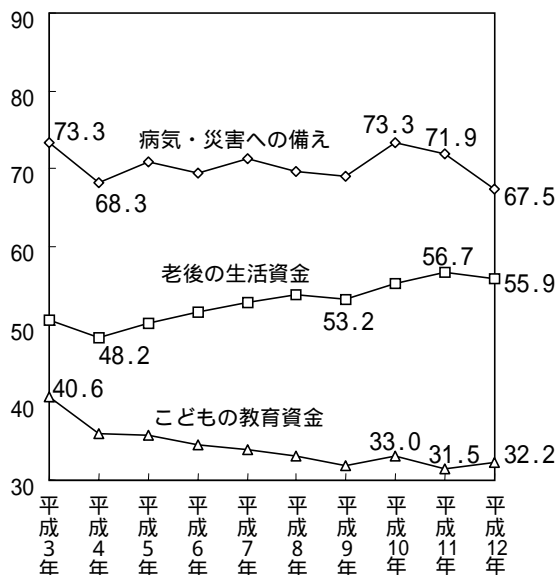
(参考図表C) 今後満期を迎える資金の行方 (複数回答)<問5(d)>



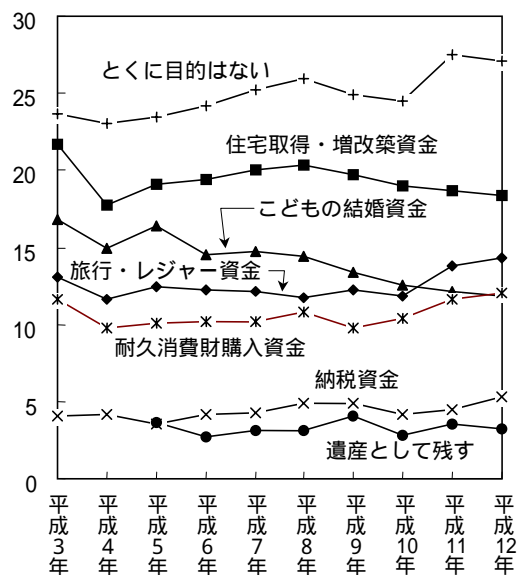
2. 貯蓄の目的

貯蓄保有世帯が貯蓄の目的として挙げている内容は、「病気・災害への備え」が最も多く、これに「老後の生活資金」、「こどもの教育資金」が続いている。なお、中期的なトレンドとしては「老後の生活資金」が上昇傾向にある。

(図表3) 貯蓄の目的 (3つまでの複数回答)<問12> (上位3位まで)



(4位以下)



金融商品の選択

1. 金融商品の選択基準

金融商品選択の際に最も重視していることとしては、「元本が保証されている」との回答が最も多い。『安全性』『流動性』『収益性』の3基準にくくってみると、引き続き安全性を重視するウエイトが高いが、ここ数年は収益性を重視する世帯が僅かながら増加している。

(注)ここでは、「安全性」、「流動性」、「収益性」に関わる項目をそれぞれ下記のように分類。

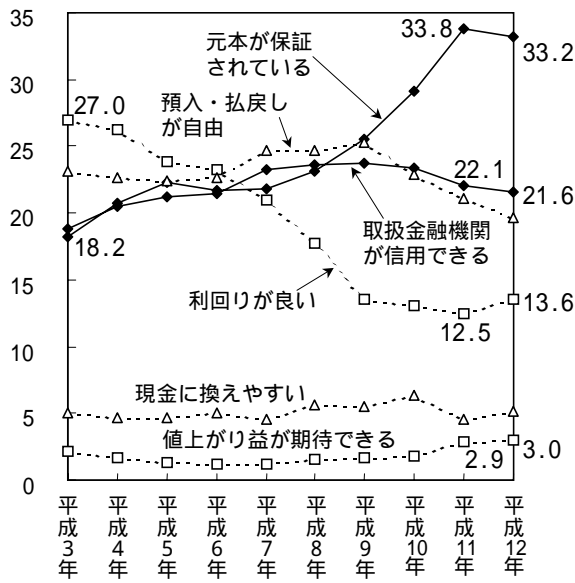
安全性：「元本が保証されているから」、「取扱金融機関が信用できて安心だから」

流動性：「少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから」、「現金に換えやすいから」

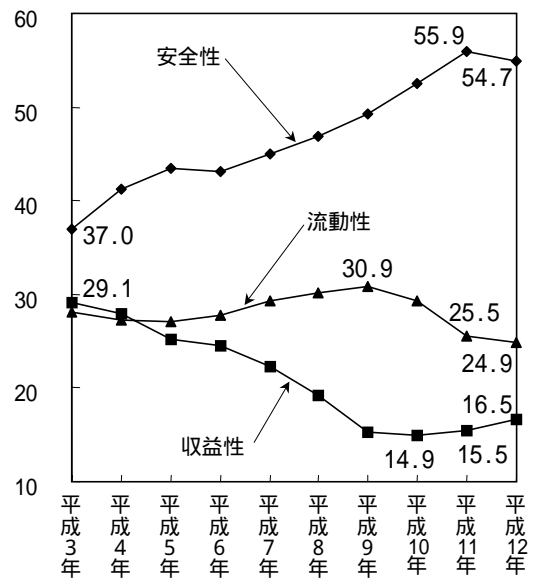
収益性：「利回りがよいから」、「将来の値上がりが期待できるから」

(図表4) 金融商品を選択する際に重視すること<問6>

(個別にみた場合の推移)



(3基準としてみた場合の推移)



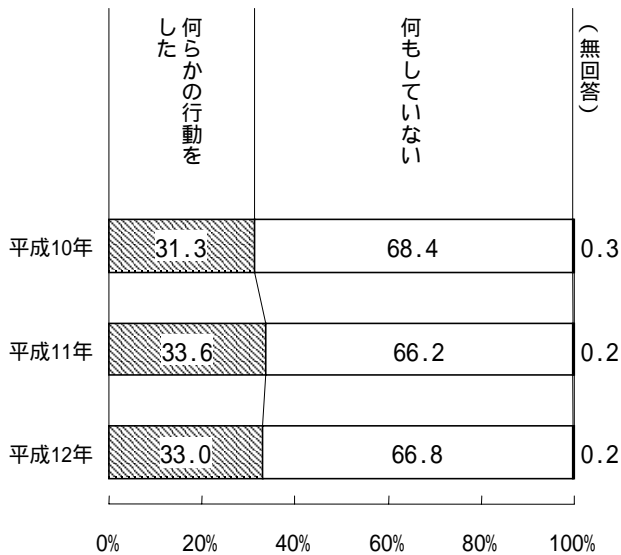
2. 金融商品の選択に関する行動

(1) 貯蓄を安全にするための行動と今後の意向

これまでに貯蓄を安全にするために「何らかの行動をした」世帯は3割強。全体の4割以上の世帯で「経営内容が健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えた」としている。また、預金残高1,000万円超の世帯では、前年を2割方上回る6割近くの世帯が「1つの金融機関に預けた預金金額が、1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散した」としている。

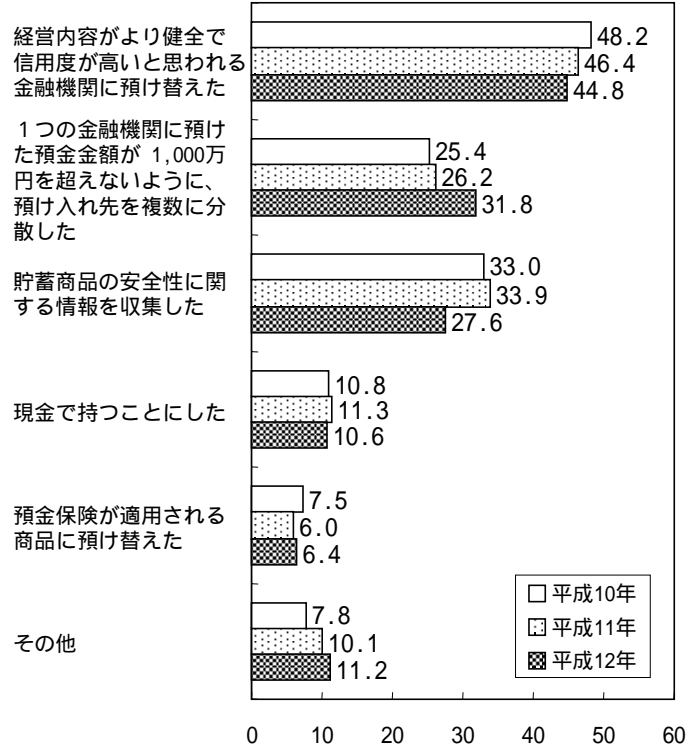
なお、今後「何らかの行動をしたいと思う」世帯は6割強となっている。

(図表5) これまでの行動<問17(a)>

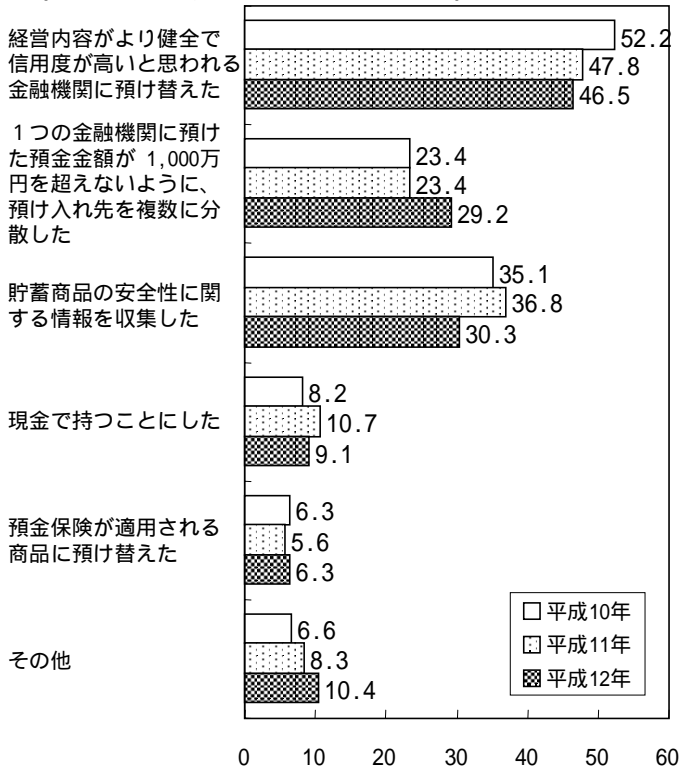


(具体的な行動の内容、複数回答)

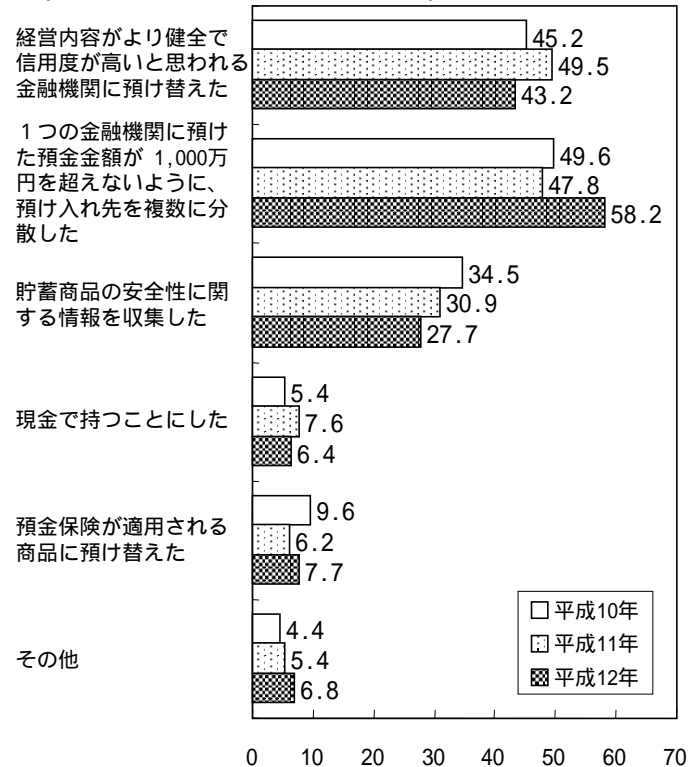
<何らかの行動をした世帯 = 100%>



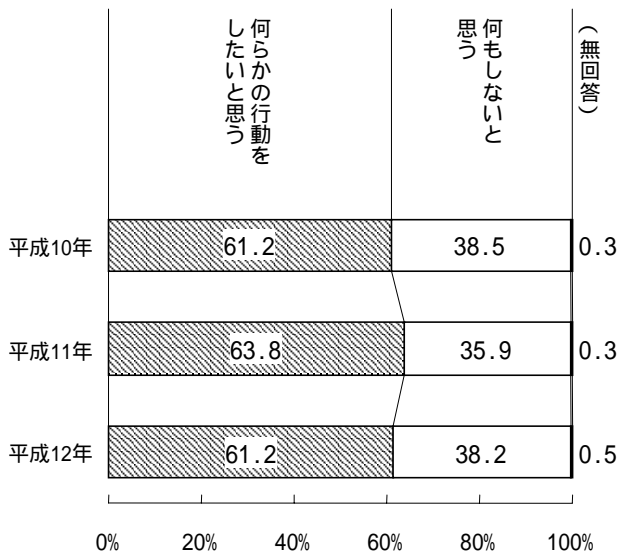
(預金残高1,000万円以下の世帯)



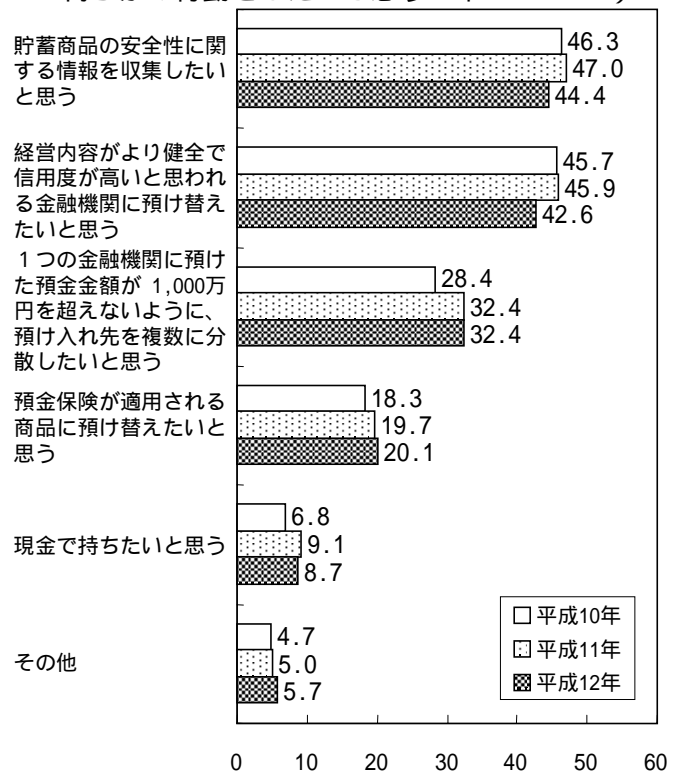
(預金残高1,000万円超の世帯)



(図表 6) 今後の意向 < 問 17(b) >



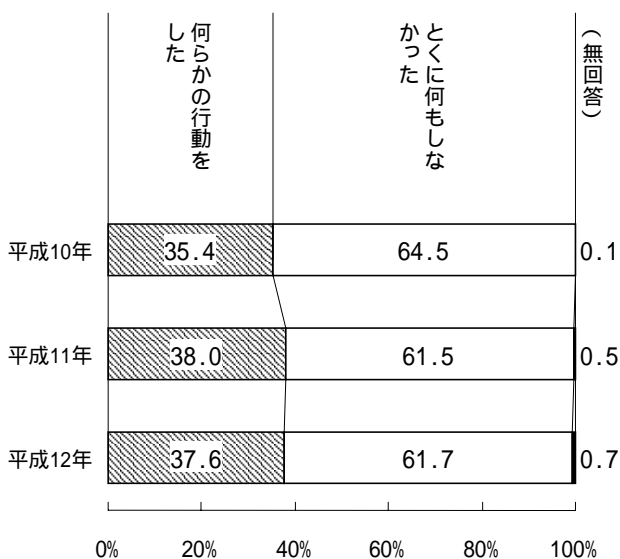
(具体的な行動の内容、複数回答 < 何らかの行動をしたいと思う世帯 = 100% >)



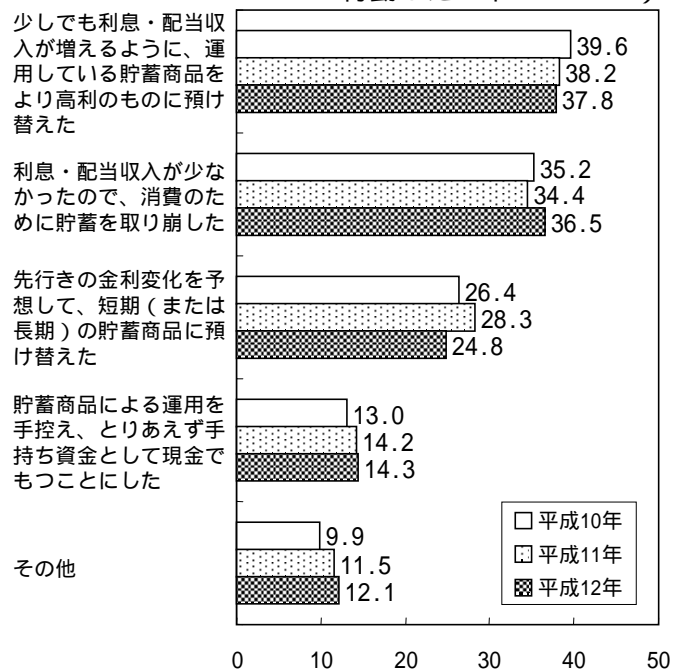
(2) 現在の金利情勢を前提とした行動

低金利を前提として「何らかの行動をした」世帯の割合は、37.6%と前年(38.0%)並み。

(図表 7) 低金利下での行動 < 問 14 >



(具体的な行動の内容、複数回答 < 行動した世帯 = 100% >)



3. 元本割れリスクに対する認識と自己責任意識

(1) 元本割れリスクに対する認識

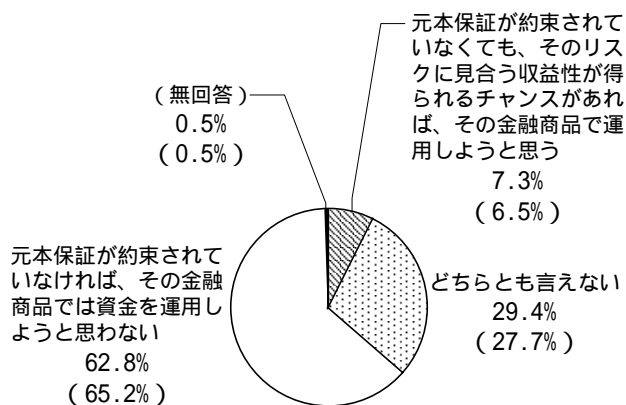
「元本保証が約束されていないならば、その金融商品で資金を運用しようとは思わない」世帯は、全体の62.8%（前年対比 2.4%ポイント減少）。現在元本割れのリスクがある金融商品を保有している世帯は、貯蓄保有世帯の19.6%、以前は保有していたが、現在は保有していない世帯は、9.6%となっている。

これらの世帯のうち、購入に当たって「元本割れがあるかもしれないことを、自分自身が納得して購入した」とする世帯が6割超を占めているが、一方で「現実には元本割れの危険はないと金融機関や他人から聞かされ、それを信じて購入した」世帯が約2割、「元本割れする可能性は考えずに購入した」世帯も1割強存在。

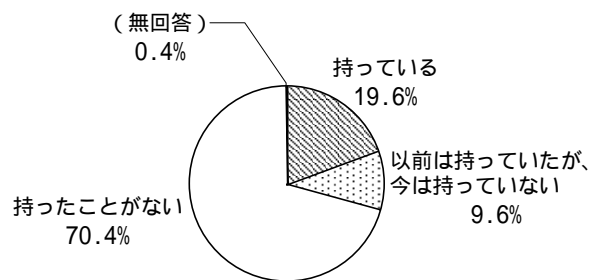
また、元本割れリスクのある金融商品を保有もしくは保有経験のある世帯の4分の3が、実際の元本割れを経験。その結果について、「自らの相場予想が外れた」あるいは「自らの理解不足によるので仕方がない」と受け止める世帯が8割超ながら、金融機関側の説明や勧誘に起因すると考える世帯も15%強に達している。とくに当該商品に関し「現実には元本割れの危険はないと金融機関から聞かされて、それを信じて購入した」世帯では、半数近くが元本割れを金融機関側の説明や勧誘によるものだ、としている点が目立つ。

(図表8) 元本保証に対するスタンス<問7>

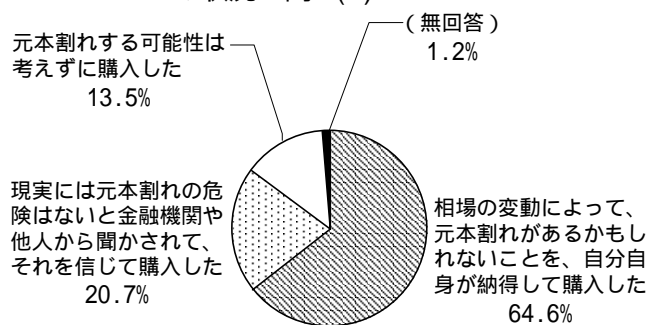
かっこ内は前年調査。



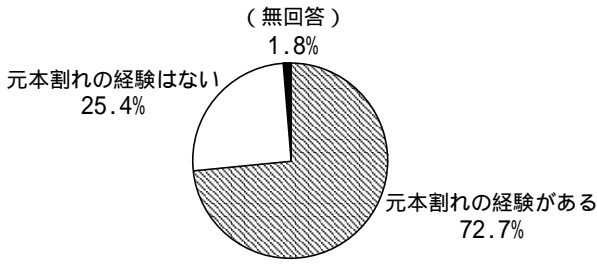
(図表9) 元本割れリスクのある金融商品の保有<問8(a)>



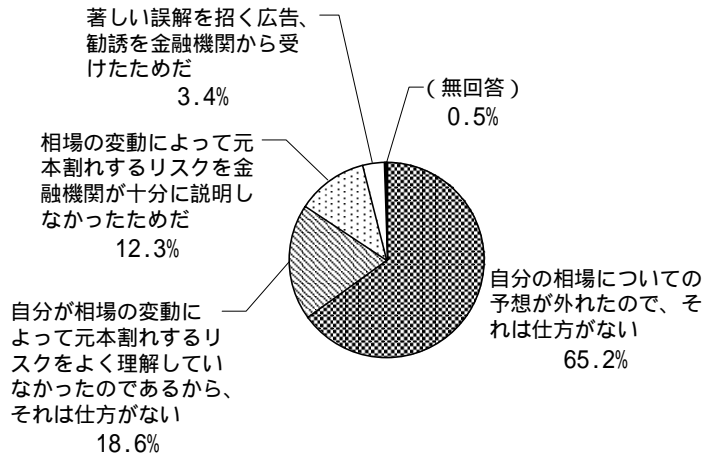
(図表10) 元本割れリスクのある金融商品購入時の状況<問8(b)>



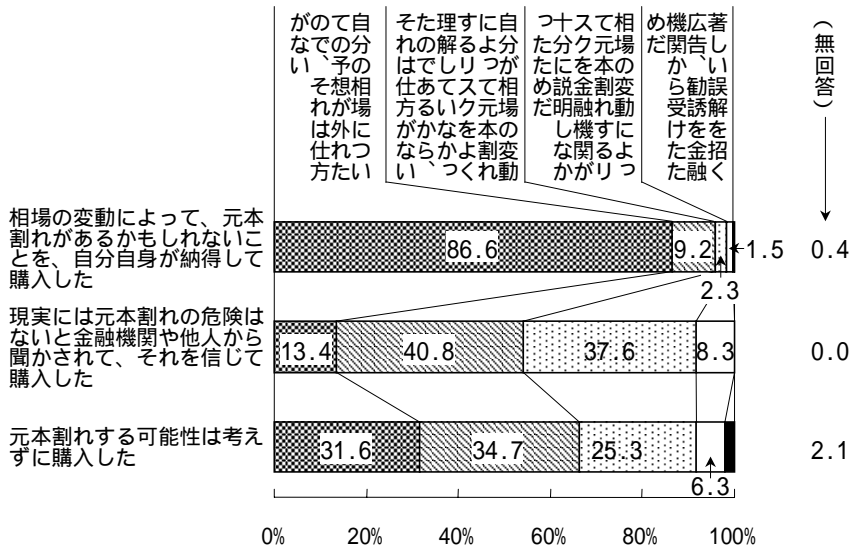
(図表 11) 元本割れの経験 < 問 8(c) >



(図表 12) 元本割れの経験の受け止め方 < 問 8(d) >



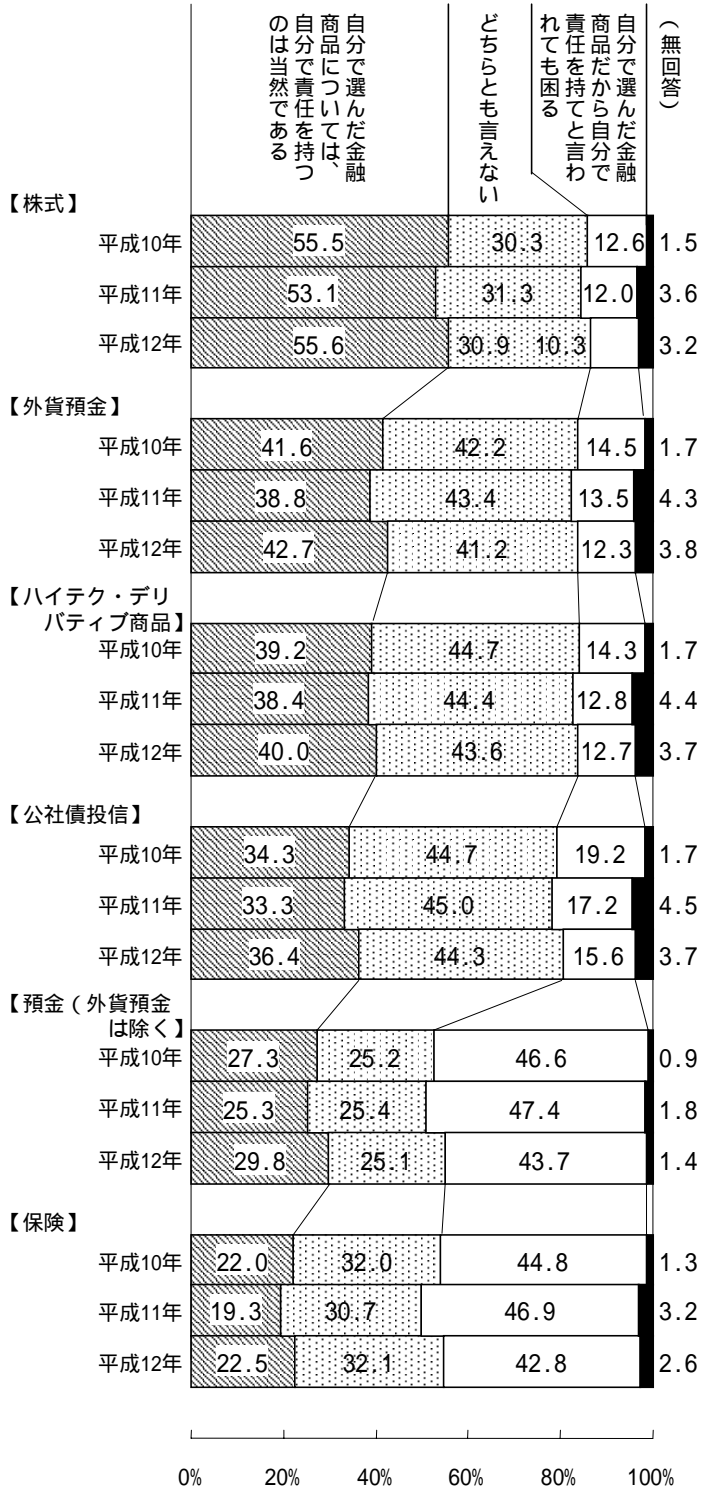
(元本割れリスクのある金融商品購入時の状況と、元本割れの経験の受け止め方との関係)



(2) 各種金融商品の選択における自己責任の受け止め方

金融商品の選択における自己責任の受け止め方は、全ての商品について、「自分で責任を持つのは当然」と考える世帯が前年比増加。本年調査では、「預金」や「保険」など元本保証商品でも、「自分で責任を持つと言われても困る」と考える世帯が減少するとともに「自分で責任を持つのが当然」と考える世帯が増加している。

(図表 13) 自己責任の受け止め方<問 18>

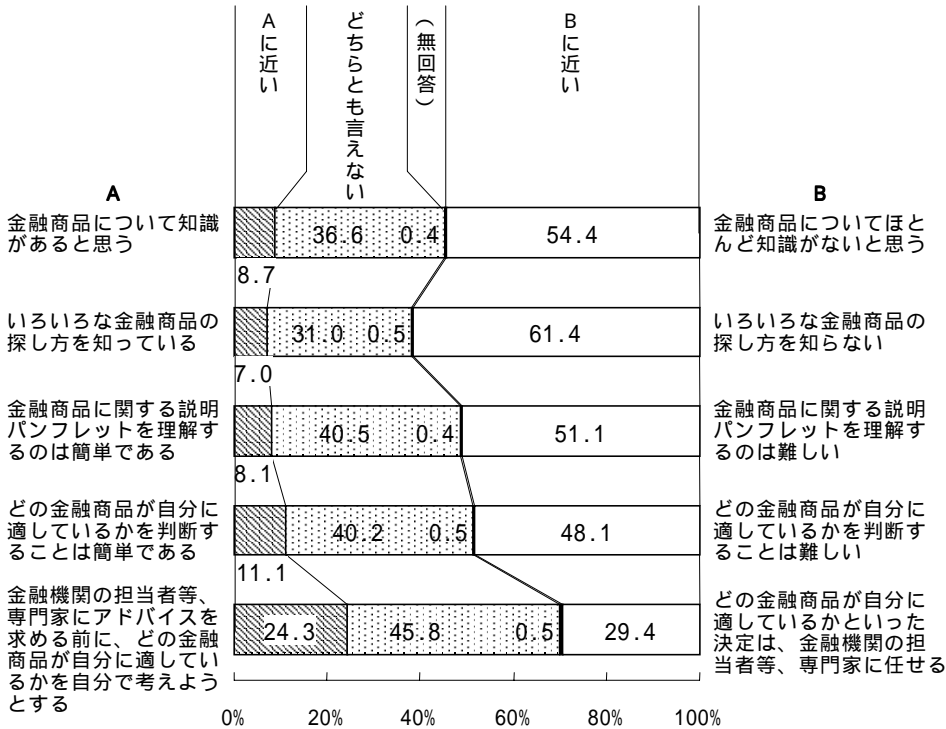


4. 金融商品選択に際しての情報の利用

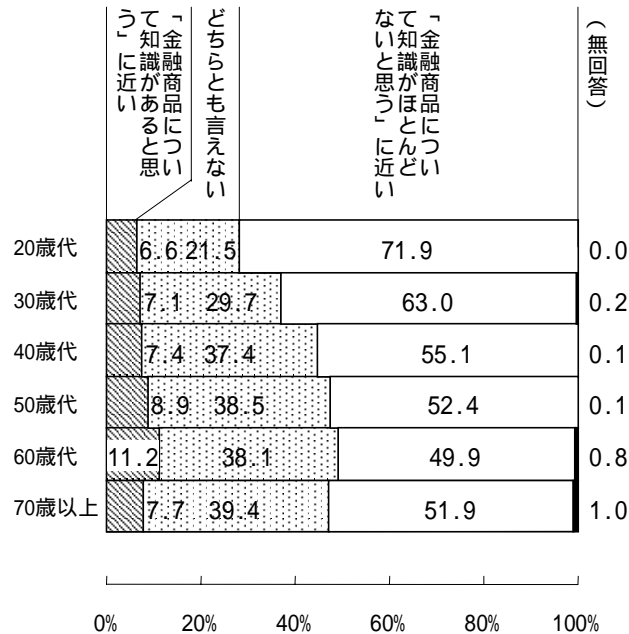
(1) 金融商品選択に関する知識やスキル

金融商品選択に当たっての自主性については、自主的に判断するか、金融機関の担当者や専門家に任せるかがほぼ拮抗する形となったが、金融商品選択に関する知識やスキルについては、いずれも半数前後が不足を感じている。

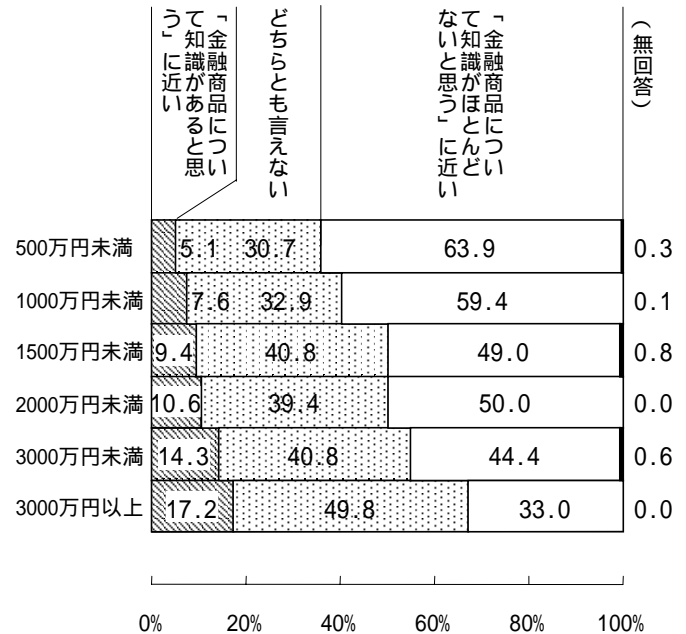
(図表14) 金融商品選択に関する知識やスキル<問44>



(金融商品についての知識・世帯主年齢別)



(同・貯蓄残高別)



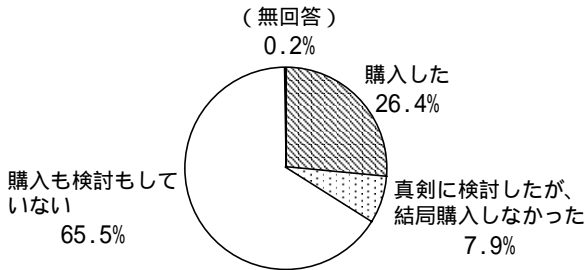
(2) 過去 2 年間で金融商品の購入・購入検討のきっかけ

過去 2 年の間、新たに金融商品を購入した世帯は 26.4%、真剣に検討したが結局購入しなかった世帯は 7.9%。

こうした購入・購入検討のきっかけとなった事柄を尋ねると、「金融機関の担当者等の勧め」が最も多くなっている。一方、「取扱っている金融機関が増えて買いやすくなった」、「インターネットで気軽にできる」、「手数料などの取引コストが低下した」といった金融商品を取り巻く環境変化の影響は現時点では限定的。

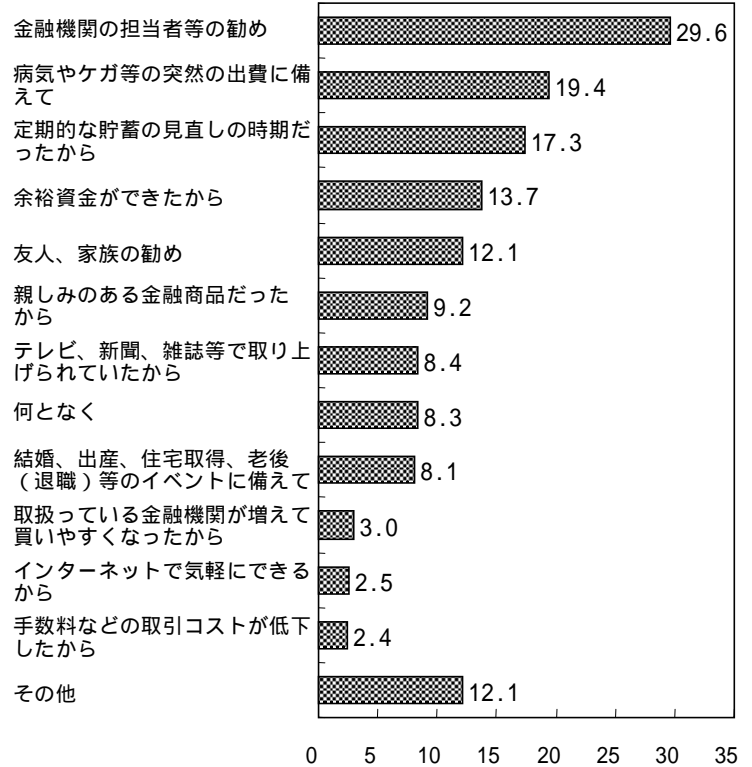
(図表 15) 過去 2 年間で購入・購入検討

< 問 45(a) >

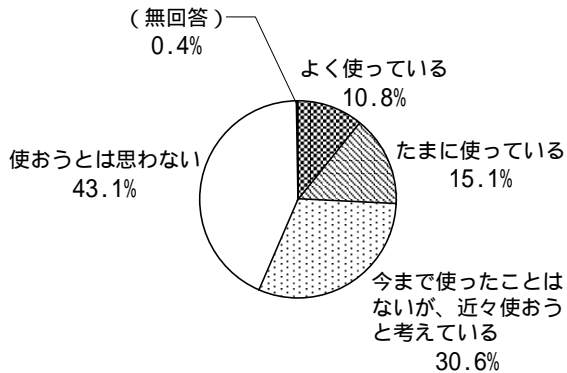


(図表 16) 購入・購入検討のきっかけ

< 問 45(c) >



(参考) インターネットの利用状況



(3) 購入・購入検討時の情報利用

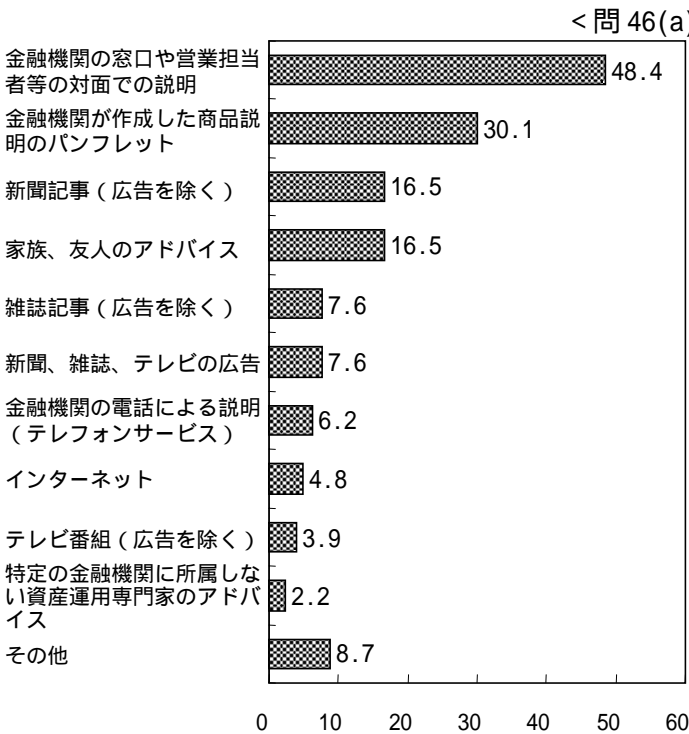
購入・購入検討時の情報収集手段としては、「金融機関の窓口や営業担当者等の対面での説明」が最も多く、次いで「金融機関が作成した商品説明のパンフレット」となっている。

入手した情報そのもの（情報の質）については、「満足している」世帯が「満足していない」世帯を上回っているが、正しい判断を行うのに必要な情報が全て入手できたか（情報の量）については、「すべて入手できた」と思う世帯が「入手できていない」と思う世帯を下回っている。

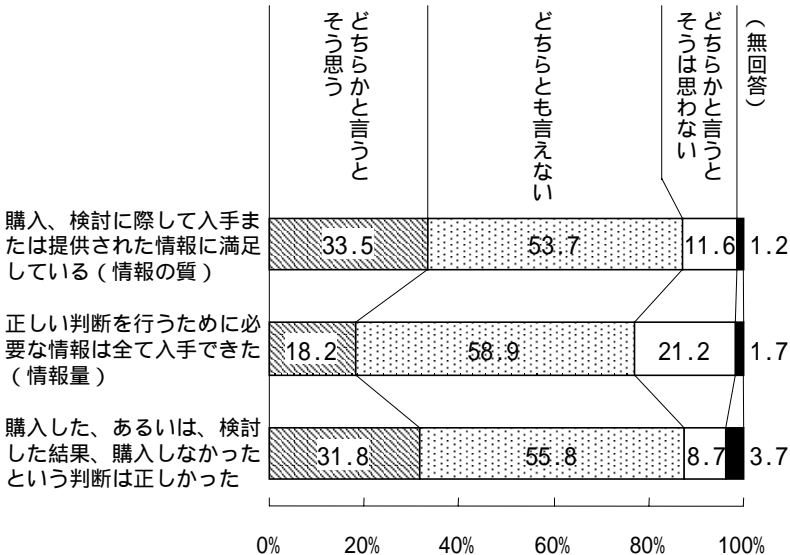
金融商品に関する当該金融機関や専門家からの説明を受けた世帯（全体の 54.0%、うち当該金融機関から説明を受けた世帯 52.7%）について、その消化状況をみると、受けた説明やアドバイスを「そのまま信用した」世帯が6割弱と最も多い。また、購入・購入検討時の金融商品の比較・検討についても、「1つの金融機関の商品についてのみ検討した」世帯が過半となっており情報吟味が必ずしも十分に行われているという姿には至っていない。

なお、「購入した、あるいは、検討の結果購入しなかった」という判断が正しかったと思う世帯は、全体の3割強となっている。

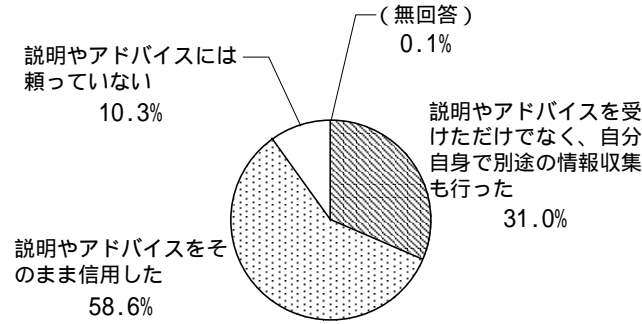
(図表 17) 購入・購入検討時の情報収集手段（複数回答）



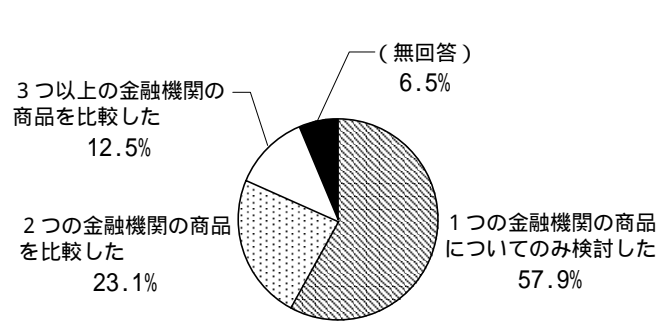
(図表 18) 購入・購入検討時に入手した情報への評価と、自らの選択の正否 < 問 45(d) >



(図表 19) 説明・アドバイスへの対応 < 問 46(b) >



(図表 20) 比較・検討の状況 < 問 47 >

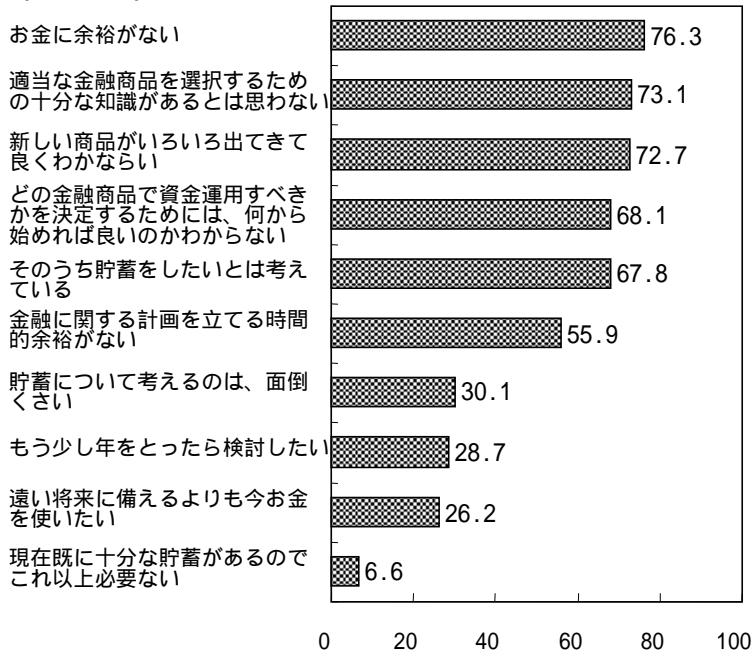


(4) 購入・購入検討に至らなかった背景

過去2年の間、金融商品を購入・購入検討しなかった世帯に対し、その背景となる事柄を尋ねると、「資金不足」のほか、「適当な金融商品を選択するための十分な知識があるとは思わない」、「新しい商品がいろいろ出てきて良くわからない」、「どの金融商品で資金運用すべきかを決定するためには、何から始めれば良いかわからない」といった項目につき、当てはまる世帯の比率が高く、選択のための知識不足から購入に至らなかったという面が窺われる。

(注) 各要因について「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」の選択肢を用意し、「どちらかと言えばそう思う」と回答した世帯割合を集計。

(図表 21) 過去2年間に購入・購入検討に至らなかった背景 < 問 48 >

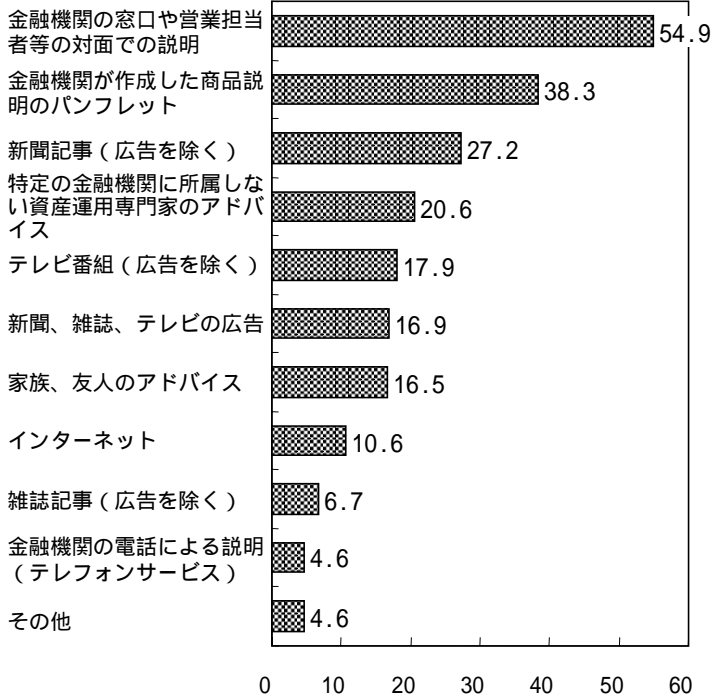


(5) 金融商品や金融に関する情報源として望ましい媒体

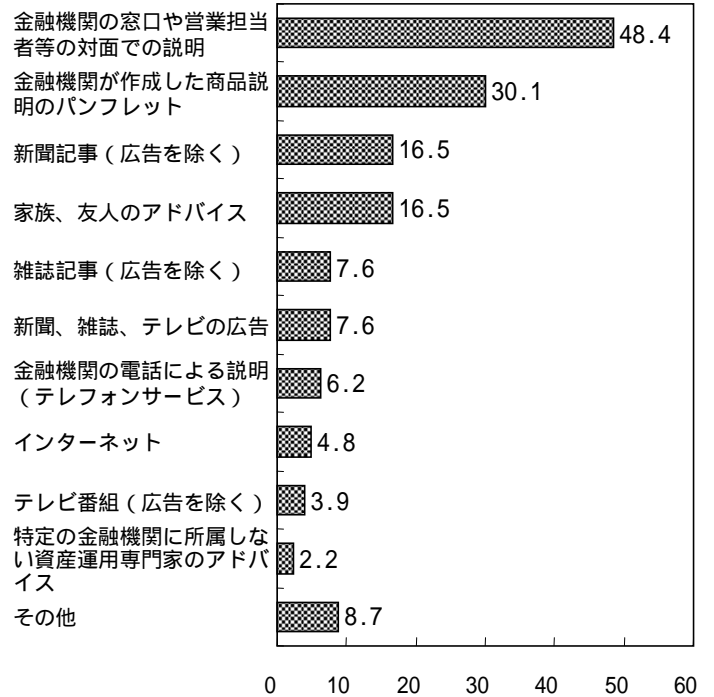
金融商品や金融に関する情報源として望ましい媒体としては、上位3位が「金融機関の窓口や営業担当者等の対面での説明」、「金融機関が作成した商品説明のパンフレット」、「新聞記事」と、過去2年間に購入・購入検討時に利用した情報収集手段と一致。なお『過去2年間に利用した情報収集手段(図表17)』では10位であった「特定の金融機関に所属しない資産運用専門家のアドバイス」が、『望ましい媒体』としては4位にあげられている点が特徴的。

(図表 22) 金融商品や金融に関する情報源として望ましい媒体

(3 つまでの複数回答) < 問 49 >



(購入・購入検討時の情報収集手段 < 再掲 >)

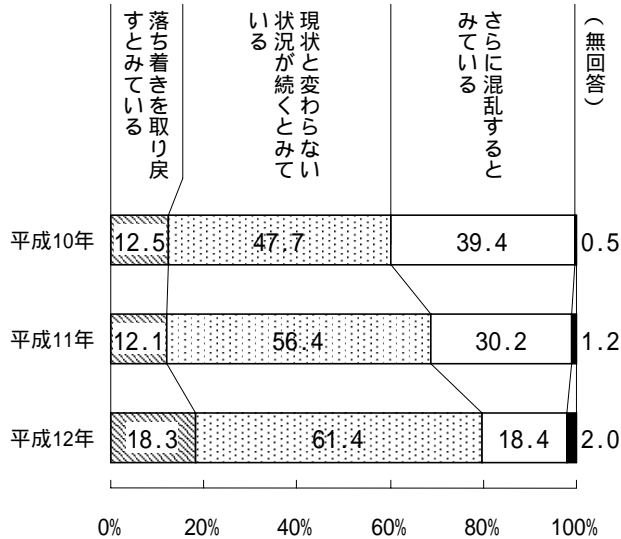


金融環境に対する認識

1. 金融機関全般

今後1～2年間の金融機関全般に対する評価は、「落ち着きを取り戻す」が前年対比+6.2%ポイント、「現状と変わらない状況が続く」が+5.0%ポイント増加。「さらに混乱する」との見方は11.8%ポイントの減少となった。

(図表23) 今後1～2年間の金融機関全般に対する評価<問21(c)>

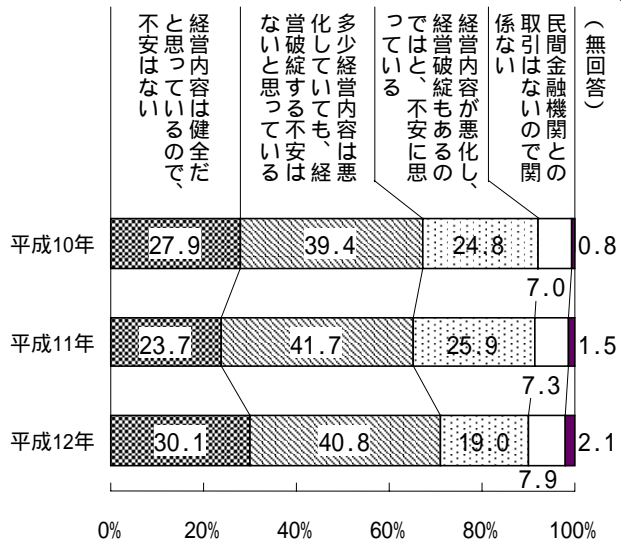


2. 取引金融機関の経営内容

(1) 経営内容に対する受け止め方

自ら取引している民間金融機関の経営内容に対する受け止め方としては、「経営内容は健全だと思っているので、不安はない」が前年対比+6.4%ポイント増加。「経営内容が悪化し、経営破綻もあるのではと、不安に思っている」は6.9%ポイント減少している。

(図表24) 経営内容に対する受け止め方<問21(b)>

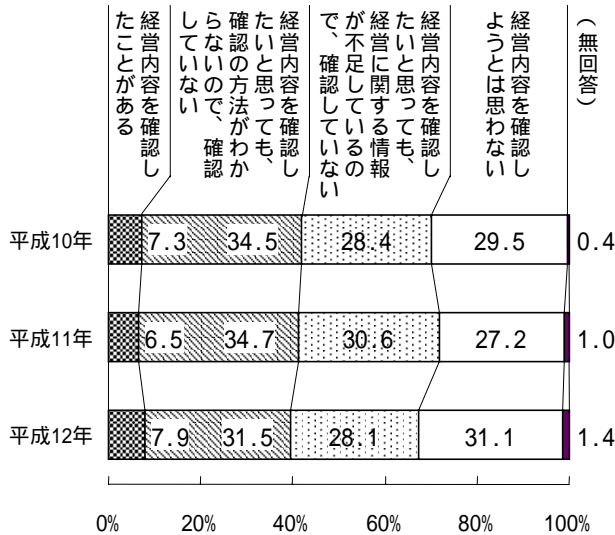


(2) 経営内容の確認

自ら取引している民間金融機関の経営内容を確認する意向については、「確認したい意向はあるが、確認していない」^(注)は前年対比 5.7%ポイント減少する一方、「確認しようとは思わない」は+3.9%ポイント増加している。

(注)「経営内容を確認したい意向はあるが、確認していない」世帯とは、「確認したいと思っても、確認の方法がわからない」世帯と「確認したいと思っても、経営に関する情報が十分でないと思っている」世帯の合計。

(図表 25) 経営内容の確認 < 問 21(d) >



3. 預金保険制度ほか各種セーフティネットの認知

預金保険制度を「知っている」^(注)世帯は、前年対比+4.0%ポイント増加し、全体の4分の3を超えた(76.9%)。

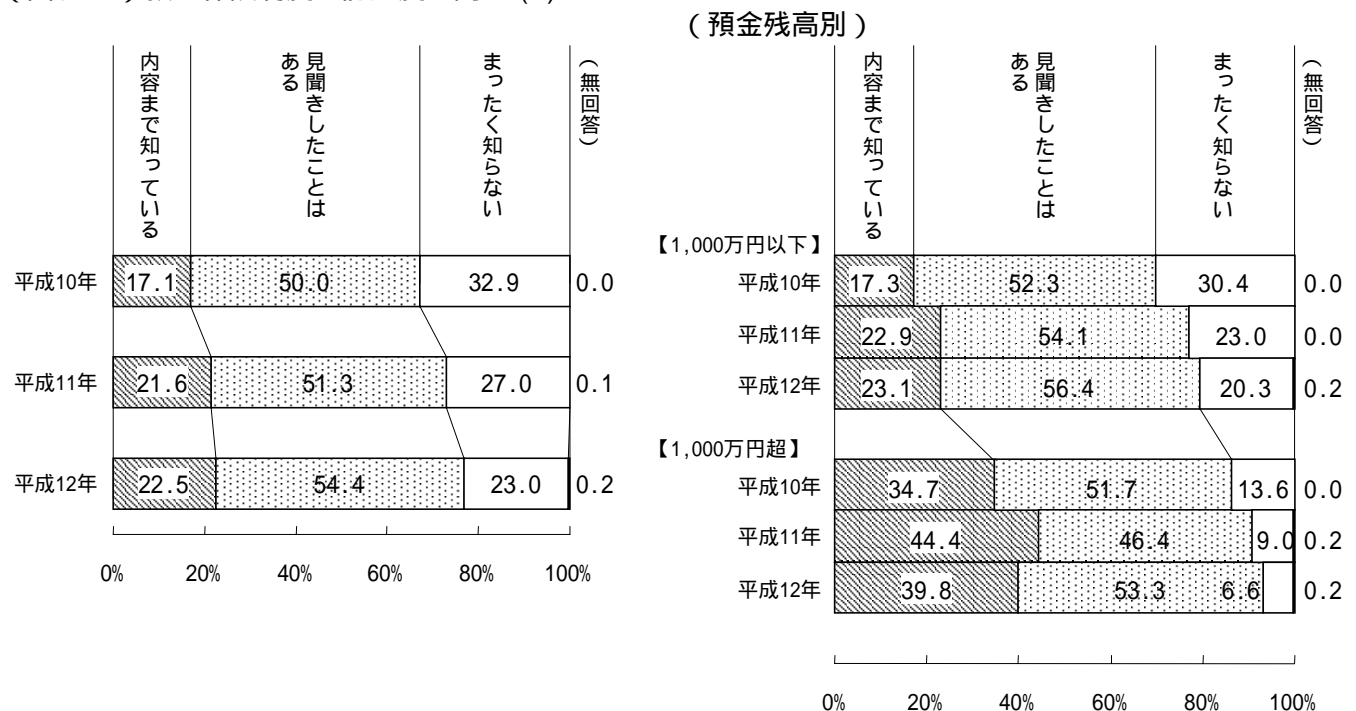
預金残高別にみると、1,000万円超の階層において「知っている」世帯は9割超。

一方、本年5月の預金保険法改正による制度の変更については、「預金保険制度は知っているが、法改正による変更は知らない」世帯が全体の32.2%(預金保険制度を知っている世帯のうち4割強)あり、預金保険制度を知らない世帯と合わせると、全世界帯の半分以上(55.2%)が、預金保険法改正による制度変更を知らない。

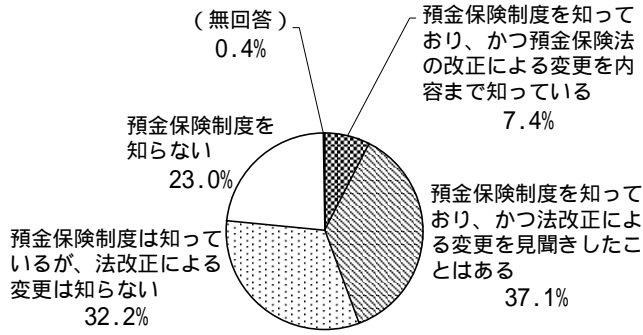
なお、投資者保護基金を知っている世帯は全体の3割弱、保険契約者保護機構を知っている世帯は4割弱となっている。

(注)各制度を「知っている」世帯は、「内容まで知っている」世帯と「見聞きしたことはある」世帯の合計。

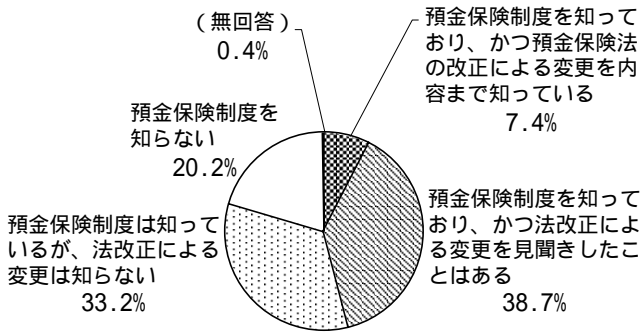
(図表 26) 預金保険制度の認知度 < 問 16(a) >



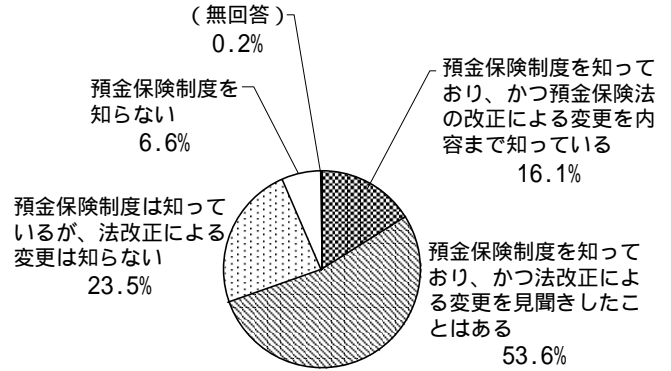
(図表 27) 預金保険制度改正の認知度 < 問 16(b) >



(預金残高 1,000 万円以下の世帯)

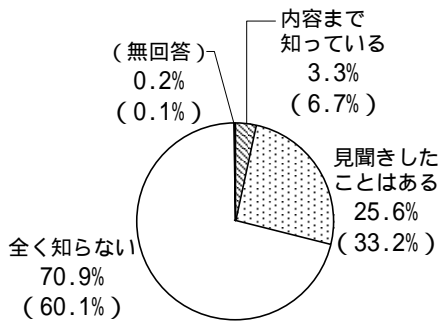


(預金残高 1,000 万円超の世帯)



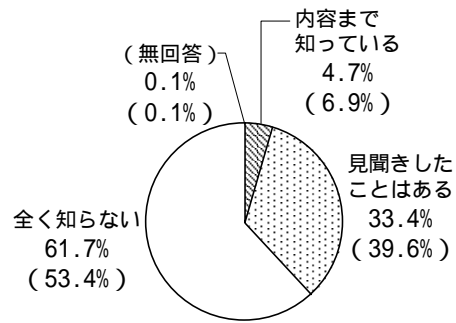
(図表 28) 投資者保護基金の認知度 < 問 16(c) >

カッコ内は前年調査。



(図表 29) 保険契約者保護機構の認知度 < 問 16(d) >

カッコ内は前年調査。



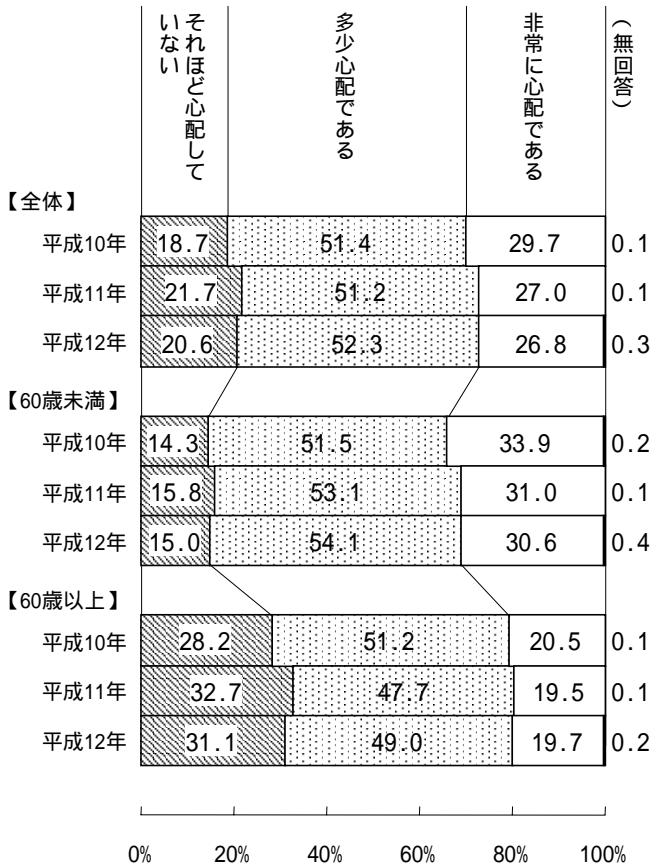
老後の生活

1. 老後の生活への心配

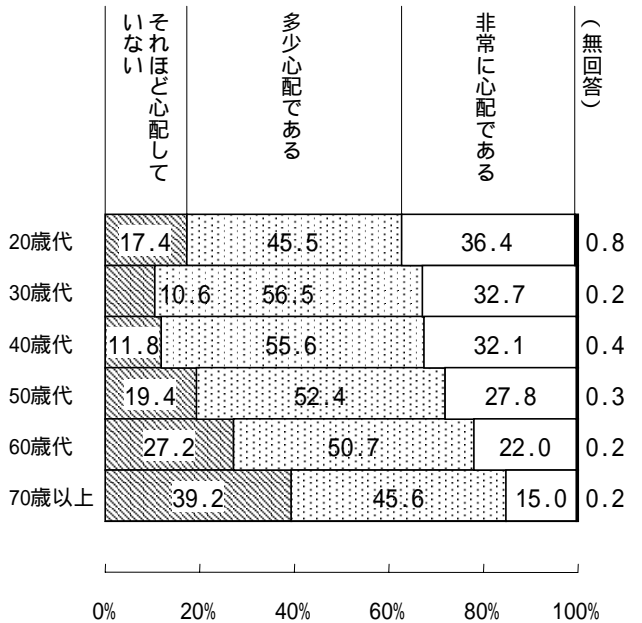
老後の生活について「心配している」世帯^(注)の割合は、引続き高水準。心配している理由としては、前年対比で「年金や保険が十分ではない」、「現在の生活にゆとりがなく、老後に備えて準備していない」が増加している。

(注)「心配している」世帯は、「非常に心配している」世帯と「多少心配している」世帯の合計。

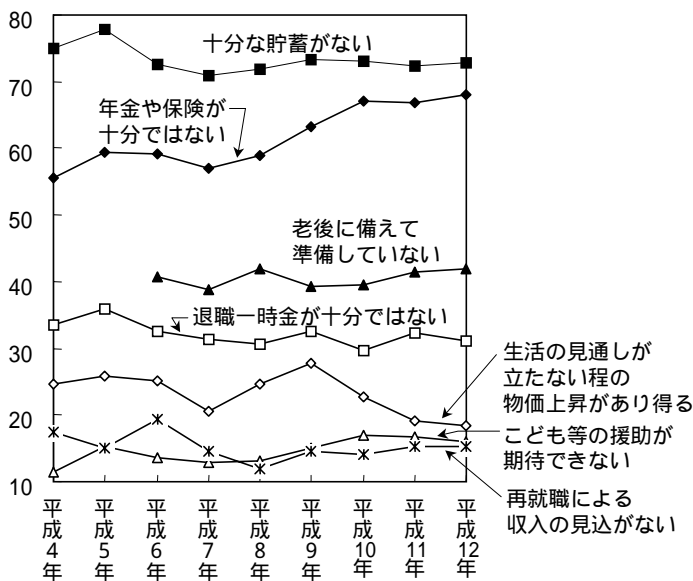
(図表 30) 老後の生活への心配 < 問 38(b) >



(本年調査の世帯主年齢別詳細)



(図表 31) 老後の生活を心配している理由
(世帯主年齢 60 歳未満、複数回答) < 問 40 >



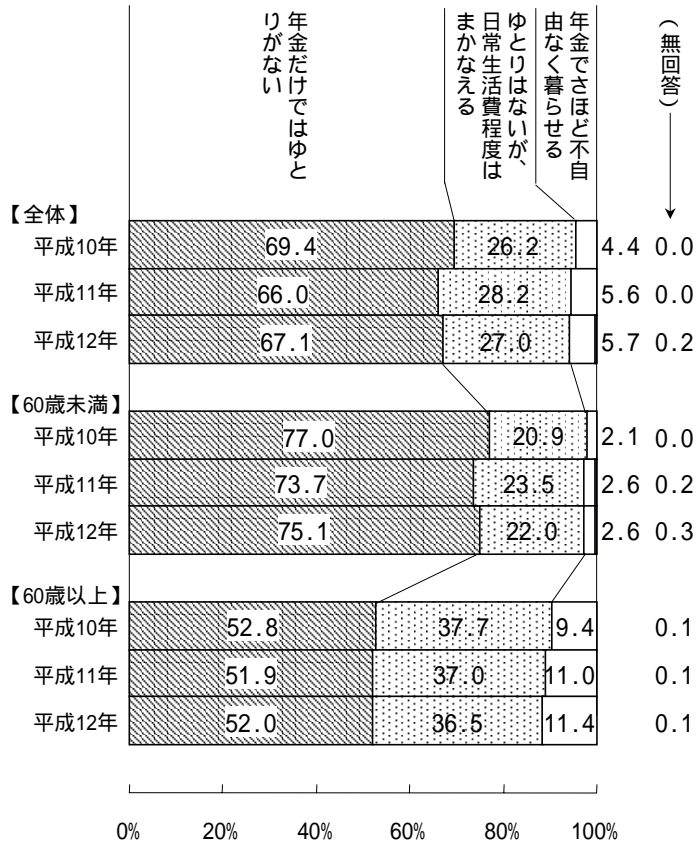
2. 年金に対する考え方

年金（公的年金・企業年金＜個人年金は除く＞）で老後の必要資金をまかなえるかとの質問に対して、年金では「ゆとりはない」^(注)との回答は、なお9割を占めている。

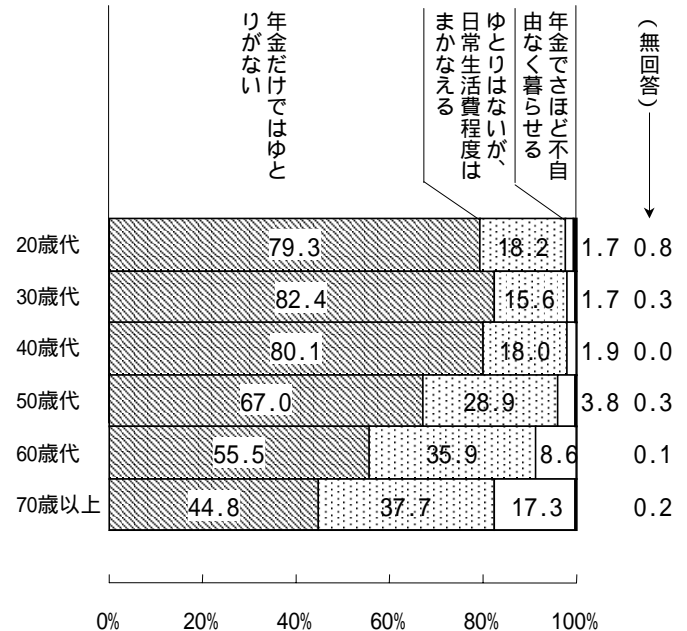
「ゆとりはない」と回答した世帯が、その不足分をどのようにまかなうかについては、前年に比べて「貯蓄でまかなうつもり」の増加、「働いてまかなうつもり」および「まだ先のことなので考えていない」の減少が目立ち、切迫感がやや強まっている様子が窺われる。

(注)「ゆとりはない」は、「年金だけではゆとりがない」と「ゆとりはないが、日常生活費程度はまかなえる」の合計。

(図表 32) 年金に対する考え方＜問 41(a)＞

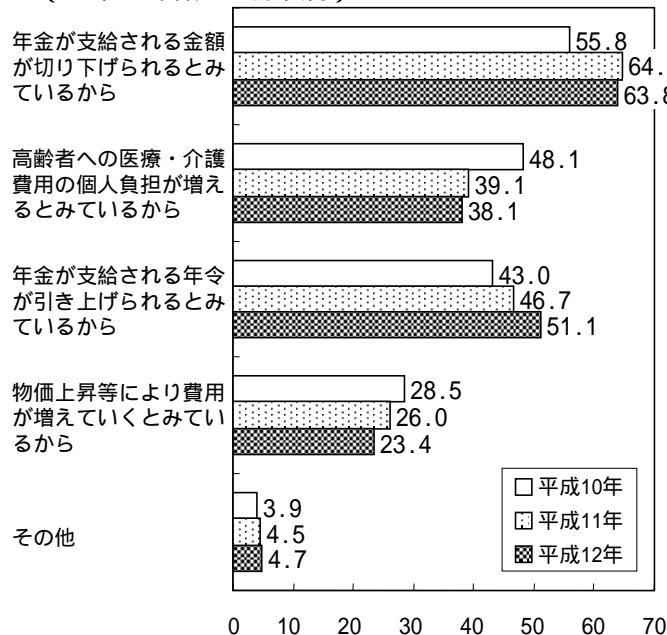


(本年調査の世帯主年齢別詳細)

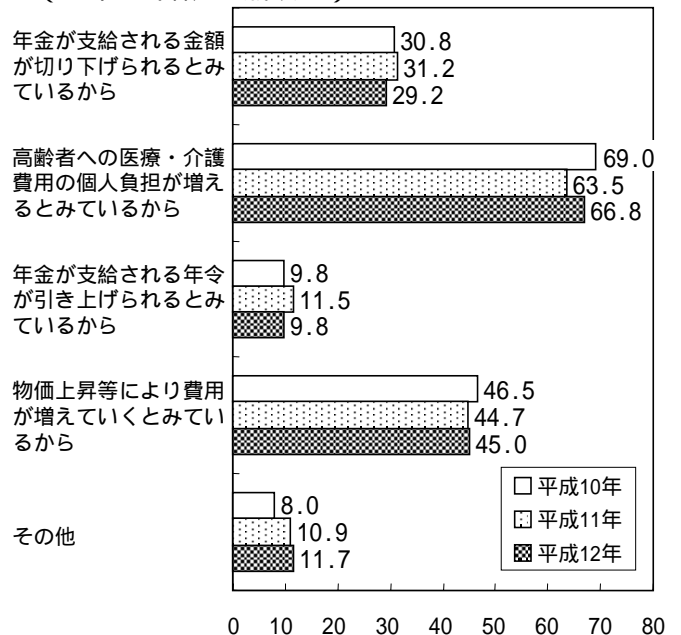


(図表 33) 年金だけではゆとりがないと考える理由（複数回答）＜問 41(b)＞

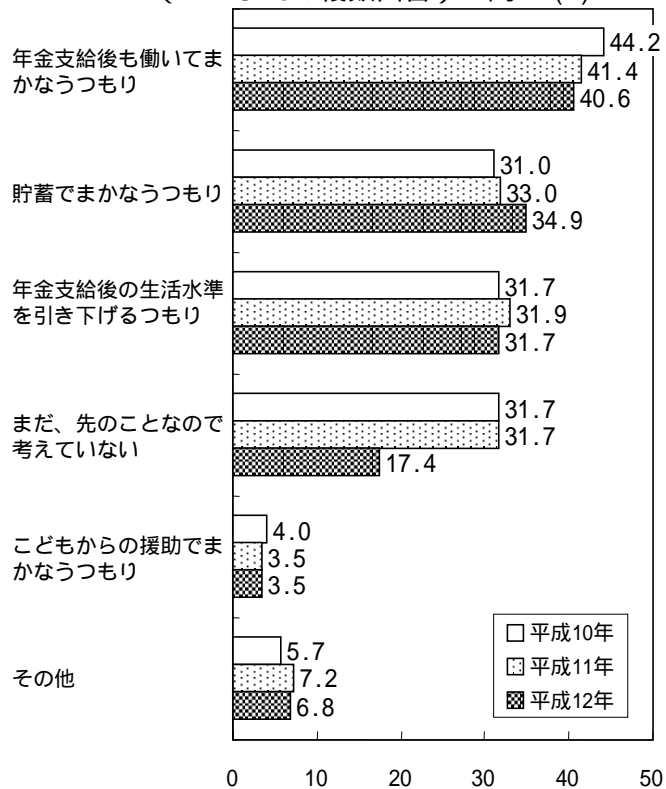
(世帯主年齢 60 歳未満)



(世帯主年齢 60 歳以上)



(図表 34) 不足する分のまかない方
 (2つまでの複数回答) <問 41(c)>



以 上

【BOX】標本設計とサンプル誤差

実際の世論調査では、国内すべての世帯を対象とすべきであるが、費用や時間など様々な事情から、すべての対象に調査を行うことは困難である。そこで、通常は、何らかの方法によって調査対象を抽出し、その結果をもって全体を推測する標本調査を行うことになる。

標本調査の主なポイントは、調査結果ができるだけ「真の世論（国内すべての世帯に調査したときの結果）」に近くなるよう、偏りのない調査対象を抽出すること（標本設計）と、「真の世論」との乖離があるとすれば、それがどのくらいあるのか（調査結果をどのくらいの幅を持ってみるべきか＝調査結果の誤差）を知っておくことである。

標本設計

本調査では、標本設計に「層化2段無作為抽出法」という方法を用いている。この方法では、全国の地域性、都市規模の特性に偏りがなく、無作為（ランダム）に調査対象を選ぶことができる特徴がある。

（層化2段無作為抽出法の手順）

地域別に調査地点数を按分	全国を9地域（北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州）に区分し、各地域の普通世帯数に比例して、全国の調査地点数400地点を各地域に按分する。	（例） 北海道(27地点)
都市規模別に調査地点数を按分	1地域の中で都市規模別6グループ（13大都市、世帯数4万以上の市、世帯数2万以上4万未満の市、世帯数1万以上2万未満の市、世帯数1万未満の市、郡部<町村>）を区分し、調査地点数を6グループの普通世帯数に対応させて割り振る。	13大都市（8地点） 4万以上の市（8地点） 2万以上の市(2地点) 1万以上の市(2地点) 1万未満の市(1地点) 郡部(6地点)
調査地点の選定	グループごとに割り振られた地点数を各グループの中から無作為に抽出し、調査対象地点を決める。	8地点を13大都市のグループからランダムに選ぶ
調査対象世帯の選定	調査地点から、住民基本台帳に基づき無作為に各15世帯の調査対象世帯を選んでアンケートを実施する。	さらに、その8地点からランダムに各15世帯を選ぶ

調査結果の誤差

本調査の調査対象世帯数は6,000世帯である。例年、回収率は70%前後なので、4,200程度の世帯の回答が得られる。調査の精度は、サイコロを多く転がせば“1”の目が出る確率が限りなく6分の1に近づくと同じように、「標本数（調査対象世帯数）が多いほど、調査結果は真の姿（真の世論）に近づいていく」という“大数の法則”に基づいている。

では、4,200世帯の回答結果は、どの程度の誤差を持っているのだろうか。例えば4,200世帯のうち、Aという考えを持つ世帯の割合が、昨年は60.0%で、本年は60.5%であったとすると、「昨年に比べて本年はAと考える世帯が増えた」と評価してよいだろうか。

下表は、調査世帯数と調査結果の比率に応じた誤差の範囲を示した早見表である。これによれば、先程の結果は、プラス・マイナス2%強の誤差を持っているので、必ずしも「昨年に比べて本年は増えた」とは言えないことになる。

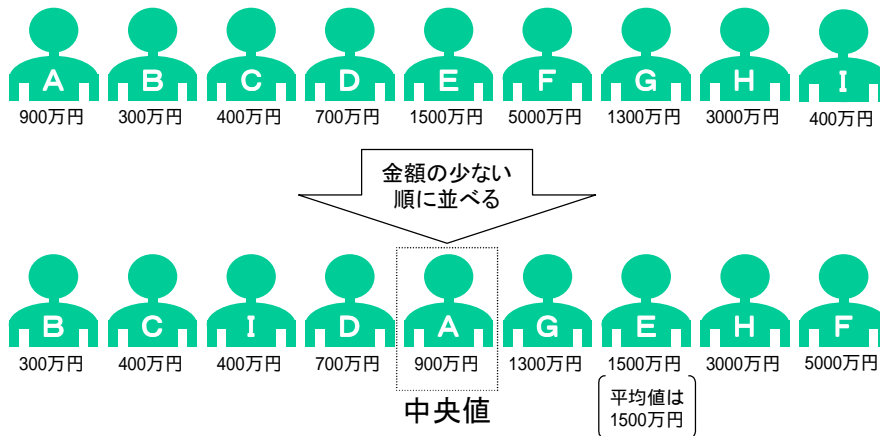
調査結果の誤差（信頼度95%）

調査世帯数 \ 調査結果の比率	1% (99%)	5% (95%)	10% (90%)	20% (80%)	30% (70%)	40% (60%)	50%
500世帯	1.3	2.8	3.8	5.1	5.8	6.2	6.3
1,000世帯	0.9	1.9	2.7	3.6	4.1	4.5	4.5
2,000世帯	0.6	1.4	1.9	2.5	2.9	3.1	3.2
3,000世帯	0.5	1.1	1.5	2.1	2.4	2.5	2.6
4,000世帯	0.4	1.0	1.3	1.8	2.0	2.2	2.2

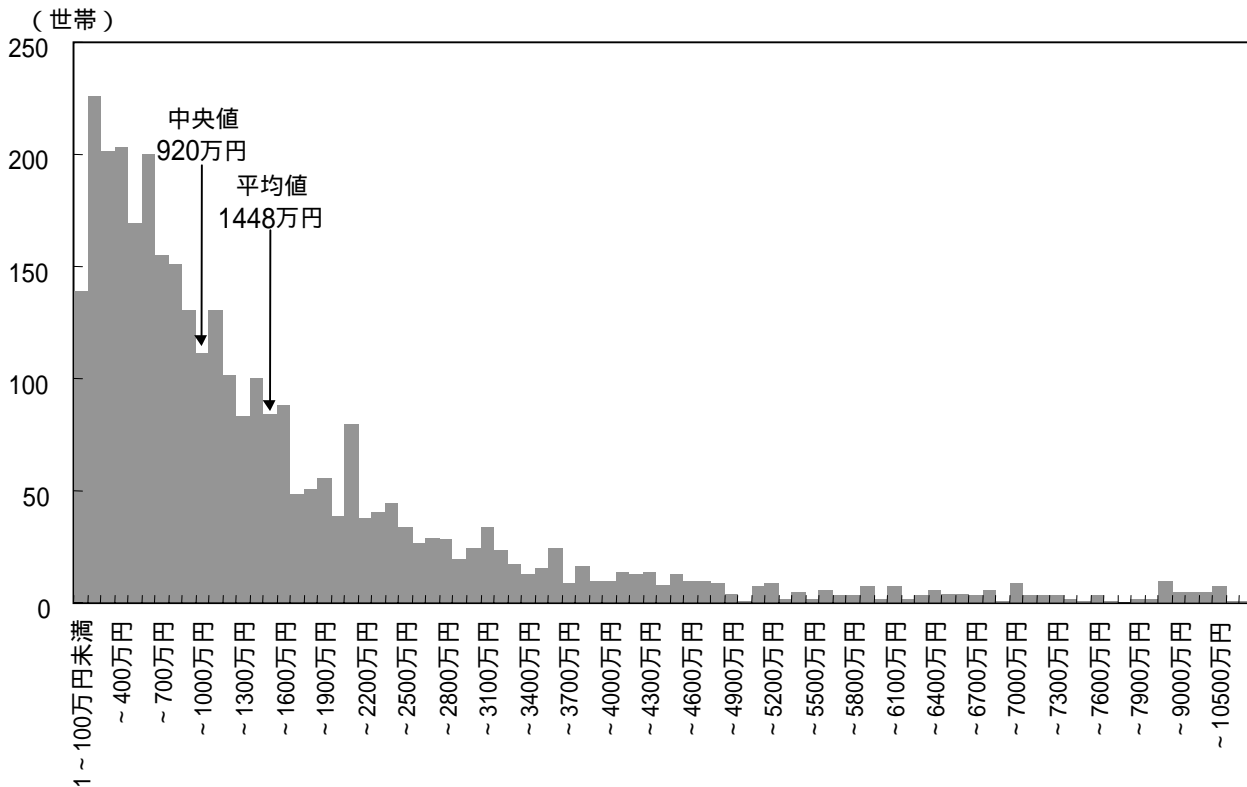
【BOX】平均値と中央値

貯蓄保有額の平均値が1,448万円と聞くと、多くの世帯は実感とかけ離れた印象（「自分はそんなに多くの貯蓄を持っていない」）を持つと思われる。これは、平均値が少数の高額貯蓄保有世帯によって、引き上げられているためである。例えば、10世帯のうち9世帯が100万円を持っていて、残りの1世帯が1億円を持っている場合には、平均値が1,090万円となってしまう。10世帯のうち9世帯は、平均値1,090万円と聞いて、その値に驚くだろう。実際、今回調査では、貯蓄保有世帯3,710世帯のうち約7割が平均値よりも少ない貯蓄保有額だった。

こうした平均値の欠点を補うために、ここでは中央値を用いて平均的な家計像を捉える。中央値とは、調査対象世帯を貯蓄保有額の少ない世帯から多い世帯へ順に並べたとき中位に位置する世帯の貯蓄保有額である。中央値（今回は920万円）では、貯蓄保有世帯のちょうど半分の世帯が自分の貯蓄額よりも多くなり、もう半分の世帯が自分の貯蓄額よりも少なくなる。したがって、中央値は世帯全体の実感により近い数字になると考えられる。



平成12年における貯蓄保有額の分布は、以下のとおりとなっている。



【調査結果（単純集計データ）】

貯蓄と消費に関する世論調査（平成12年）

（注）回答欄に併記された計数は、選択肢形式の場合は回答比率（%、小数第2位四捨五入）、数値記入形式の場合は合計項目の回答世帯を分母とする平均値（単位未満四捨五入）を示す。また、数値記入形式において欄外に記した数値は、合計項目の回答世帯を分母とする保有率（%、小数第2位四捨五入）を示す。問3（a）に示した欄外計数については、貯蓄保有者の合計世帯数を分母として、算出。「現在の外貨建金融商品残高合計」については、各項目の金額回答世帯の平均値。なお、無回答者を掲記していないため、単数回答項目について、その回答比率の合計は必ずしも100とはならない。

問1

あなたのご家庭では、(a)過去1年間に手取り収入（税引後）の何%（%未満は四捨五入）ぐらいを貯蓄^{（注）}しましたか。

また、(b)年間手取り収入のうちボーナスや臨時収入（税引後）からは何%（%未満は四捨五入）ぐらいを貯蓄しましたか（商・工業や農・林・漁業等事業のための貯蓄や、給与振込、口座振替など一時的にしか口座にとどまらないような預貯金は含めないでお答えください。以下の質問についても同様です）。

該当する番号に 印をつけてお答えください。

（注）この調査でいう貯蓄とは金融資産（問3に記載の貯蓄商品）であり、土地・住宅等の実物資産は含みません。

（記入例）

例えば、年間手取り収入100万円のうち
5万円を貯蓄した場合 →

5

 %
12万5千円を貯蓄した場合 →

13

 %
とご記入ください（%未満は四捨五入）。

- (a) {
- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| 1 | 年間手取り収入の <table border="1"><tr><td>1</td><td>0</td></tr></table> %ぐらいを貯蓄した。 | 1 | 0 | 73.5 |
| 1 | 0 | | | |
| 2 | 年間手取り収入から貯蓄を全くしなかった。 | 24.9 | | |
- (b) {
- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| 1 | ボーナスや臨時収入の <table border="1"><tr><td>2</td><td>7</td></tr></table> %ぐらいを貯蓄した。 | 2 | 7 | 42.4 |
| 2 | 7 | | | |
| 2 | ボーナスや臨時収入から貯蓄を全くしなかった。 | 19.0 | | |
| 3 | ボーナスや臨時収入がなかった。 | 36.0 | | |

問2

あなたのご家庭では、現在、貯蓄を保有していますか。（ は1つ）

1
貯蓄を保有している。
87.6
↓
続けて問3にお答えください。

2
貯蓄を保有していない。
12.4
↓
続けて問4にお答えください。

問3

(a) あなたのご家庭では、現在の貯蓄商品別残高（手持ち現金を除き、外貨建金融商品を含めます）およびその合計額はどのくらいですか。

貯蓄商品	現在の貯蓄残高					記入に当たっての注意		
	億	千万	百万	十万	万円			
1 預貯金			5	2	6	郵便貯金は除く。外貨預金（円換算額）を含めます。	74.4	
うち定期性預金			3	7	6	期間の定めのある預金。	56.2	
2 郵便貯金			2	8	1		58.7	
うち定期性貯金			2	3	7	定額貯金、積立貯金など期間の定めのある貯金。	49.6	
3 金銭信託・貸付信託				3	9	ビッグ、ヒット、スーパーヒットを含む。	6.9	
4 生命保険・簡易保険			3	0	0	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、掛け捨ての保険、年金型商品は除く。	58.8	
5 損害保険				3	3	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、掛け捨ての保険、年金型商品は除く。	17.5	
6 個人年金保険				7	0	これまでに積み立てた掛け金の総額。厚生年金、国民年金、公務員共済など公的年金の掛け金は除く。	21.4	
7 債券				1	9	時価 現在の相場 でお答えください。ご不明なら額面でお答えください。外貨建分（円換算額）を含めます。	3.5	
8 株式			1	0	3	従業員持株制度による株式を含む。時価 現在の相場 でお答えください。外貨建分（円換算額）を含めます。	17.9	
9 投資信託				3	2	時価 現在の相場 でお答えください。ご不明なら額面でお答えください。外貨建分（円換算額）を含めます。	5.8	
10 財形貯蓄				4	0	一般財形、財形年金、財形住宅の合計額。	14.3	
11 その他金融商品					5	抵当証券、金貯蓄口座など。	2.0	
合計（1～11の総計）		億	千万	百万	十万	万円		100.0
		1	4	4	4	8	外貨建金融商品（円換算額）を含めます。	

(外貨建金融商品を保有しているご家庭にお尋ねします)

(b) (a)でお答え頂いたもののうち、現在、保有している外貨建金融商品の残高(記入時点の為替相場による円換算額)を下表にご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円	
現在の外貨建金融商品残高合計			3	8	2	100.0
うち外貨預金			1	3	2	43.9
外貨建投資信託			1	2	8	37.8
外貨建債券(注)			1	1	4	21.4
外貨建株式					6	8.2
その他の外貨建金融商品					2	4.2

(注)デュアルカレンシー債(二重通貨建債券)を含みます。

問4

あなたのご家庭での金融商品の保有希望について、お尋ねします。今後、1～2年の間に貯蓄を増やしたり、預け替えてみようと考えている金融商品があれば、その番号に をつけてください。(はいいくつでも)

	今後、増やしてみたい または、預け替えしてみたい
預貯金(郵便貯金を除く)	37.8
郵便貯金(簡保は除く)	36.9
信託(ビッグ・ヒットなど)	5.0
積立型保険商品(生保・簡保・損保)	7.6
個人年金保険	11.2
債券(国債、社債など)	4.1
株式	8.9
株式投資信託	4.1
公社債投資信託(MMFなど)	6.1
外貨建金融商品 (外貨預金、外債、外貨建投信など)	4.4

問5

(a) 現在、あなたのご家庭では、郵便局の定額貯金を保有していますか。(は1つ)

1 保有している。 59.1	2 保有していない。 40.5
----------------------	-----------------------

(前問(a)で1と回答した方にお聞きします。)

(b) あなたのご家庭で保有する定額貯金は、今年から来年にかけて満期が到来しますか。(は2つまで)

(注) すでに満期があり、今後も満期が到来する予定がある場合は、2と3の両方にをつけてください。

1 当分満期にはあたらない。 47.4	2 平成12年1月～6月 までに満期を迎えた。 22.6	3 平成12年7月～平成13年末 までに満期を迎える。 43.0
---------------------------	---------------------------------------	---

その金額は、どのくらいの金額ですか。
(金額は元利合計をお答えください)

	3	0	6	万円
--	---	---	---	----

(注) 2と3の両方に つけた方はその合計金額をご記入ください。

(前問(b)の回答が2の方は(c)へ、3の方は(d)へそれぞれお進みください。)

(c) すでに満期を迎えた資金をどうしましたか。(はいくつでも)

1 郵便貯金に全額預けたままである。	66.9
2 半分以上を他の商品に預け替えた。	4.6
3 一部を他の商品に預け替えた。	5.5
4 一部を消費に回した。	20.2

預け替えを行ったご家庭では、その資金をどの金融商品に預け替えましたか。(はいくつでも)

1 預貯金(郵便貯金を除く)	58.0
2 株式	16.0
3 株式投資信託	2.0
4 公社債投資信託(MMFなど)	14.0
5 債券(国債、社債など)	12.0
6 外貨建金融商品(外貨預金、外債、外貨建投信など)	2.0
7 その他	16.0

(d) 今後、満期を迎えるご家庭ではその資金をどうしますか。(はいくつでも)

1 郵便貯金に全額預けておくつもり。	56.0
2 半分以上を他の商品に預け替えるつもり。	6.0
3 一部を他の商品に預け替えるつもり。	8.9
4 一部を消費に回すつもり。	17.6
5 特に考えていない。	14.0

預け替えようと考えているご家庭では、どの金融商品に預け替えるつもりですか。(はいくつでも)

1 預貯金(郵便貯金を除く)	36.4
2 株式	22.9
3 株式投資信託	10.7
4 公社債投資信託(MMFなど)	30.0
5 債券(国債、社債など)	20.7
6 外貨建金融商品(外貨預金、外債、外貨建投信など)	15.7
7 その他	11.4

問6

あなたのご家庭では、貯蓄する商品を決める場合に、どのようなことに最も重点をおいて選びますか。(は1つ)

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 利回りが良いから。 | 13.6 |
| 2 将来の値上がりが期待できるから。 | 3.0 |
| 3 元本が保証されているから。 | 33.2 |
| 4 取扱金融機関が信用できて安心だから。 | 21.6 |
| 5 現金に換えやすいから。 | 5.2 |
| 6 少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから。 | 19.7 |
| 7 その他 | 3.2 |

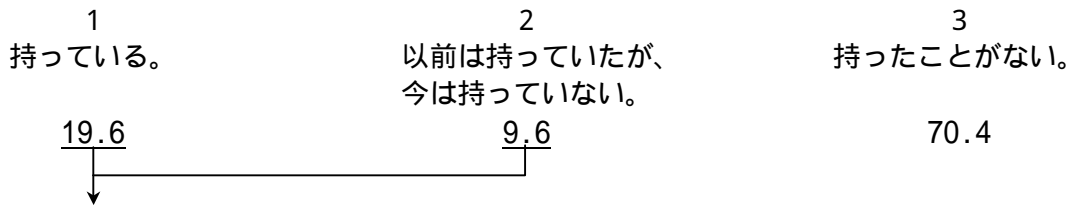
問7

あなたが金融商品を選ぶとき、高い収益が得られるチャンスと元本割れするかもしれないリスクの関係について、どちらの考え方に近いですか。(は1つ)

	どA ち に ら 近 か い と 言 え ば	ど言 ちえ らな とい も	どB ち に ら 近 か い と 言 え ば	
A				B
元本保証が約束されていなくても、そのリスクに見合う収益性が得られるチャンスがあれば、その金融商品で運用しようと思う。	7.3	29.4	62.8	元本保証が約束されていなければ、その金融商品では資金を運用しようと思わない。

問 8

(a) 金融商品のなかには、株式や外貨預金のように、株価や為替相場の変動によっては元本割れするものがあります。あなたのご家庭では、こういった商品をお持ちですか。(は1つ)



(b)と(c)へお進みください。

(前問(a)で1、2と回答した方にお聞きします。)

(b) このような金融商品を購入した時点では、元本割れする可能性について、主にどのようなお考えで購入していましたか。(は1つ)

- | | |
|---|------|
| 1 相場の変動によって、元本割れがあるかもしれないことを、自分自身が納得して購入した。 | 64.5 |
| 2 現実には元本割れの危険はないと金融機関や他人から聞かされて、それを信じて購入した。 | 20.7 |
| 3 元本割れする可能性は考えずに購入した。 | 13.5 |

(c) 運用していた資金が元本割れした経験はありますか。(は1つ)



(1とお答えになったご家庭にお聞きします。)

(d) 元本を割り込むことになった運用結果について、どのようにお考えですか。(は1つ)

- | | |
|---|------|
| 1 自分の相場についての予想が外れたのであるから、それは仕方がない。 | 65.2 |
| 2 自分が相場の変動によって元本割れするリスクをよく理解していなかったのであるから、それは仕方がない。 | 18.6 |
| 3 相場の変動によって元本割れするリスクを金融機関が十分に説明しなかったためだ。 | 12.3 |
| 4 著しい誤解を招く広告、勧誘を金融機関から受けたためだ。 | 3.4 |

問9

あなたのご家庭では、現在の貯蓄残高は1年前と比べて増えましたか、あるいは減りましたか。

(は1つ)

1
増えた。
22.2

2
変わらない。
33.7

3
減った。
43.8

問11にお進みください。

問10

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(前問で3と回答した人にお聞きします。)

(a) 「増えた」理由は何ですか？
(はいくつでも)

1	定例的な収入が増加したから。	33.9
2	定例的な収入から貯蓄する割合を引き上げたから。	26.5
3	配当や金利収入があったから。	8.5
4	土地・住宅等の実物資産の売却による収入があったから。	1.3
5	相続、退職金等による臨時収入があったから。	8.4
6	株式、債券価格の上昇により、これらの評価額が増加したから。	5.8
7	扶養家族が減ったから。	7.0
8	その他	21.6

(b) 「減った」理由は何ですか？
(はいくつでも)

1	定例的な収入が減ったので貯蓄を取り崩したから。	46.2
2	土地・住宅購入費用の支出があったから。	15.4
3	耐久消費財(自動車、家具、家電等)購入費用の支出があったから。	27.7
4	こどもの教育費用、結婚費用の支出があったから。	33.5
5	旅行、レジャー費用の支出があったから。	10.6
6	株式、債券価格の低下により、これらの評価額が減少したから。	5.4
7	扶養家族が増えたから。	4.1
8	その他	13.2

問11

あなたのご家庭では、1年後の貯蓄残高は増えていると思いますか、あるいは減っていると思いますか。(は1つ)

1
増えているだろう。
21.1

2
変わらないだろう。
42.1

3
減っているだろう。
36.3

問12

あなたのご家庭では、どのような目的で貯蓄をしていますか。(は3つまで)

1	病気や不時の災害のときに備えるため。	67.5
2	こどもの教育資金にあてるため。	32.2
3	こどもの結婚資金にあてるため。	11.8
4	住宅(土地を含む)の取得または増改築などの資金にあてるため。	18.4
5	老後の生活資金にあてるため。	55.9
6	耐久消費財(自動車、家具、家電等)の購入資金にあてるため。	12.0
7	旅行、レジャーの資金にあてるため。	14.3
8	納税資金にあてるため。	5.3
9	遺産として子孫に残してやりたいから。	3.2
10	とくに目的はないが、貯蓄していれば安心なため。	27.1
11	その他	2.8

問 1 3

あなたのご家庭では、現在どのくらいの貯蓄残高を目標にしていますか。下表に数値をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
貯蓄目標残高		2	3	9	7

問 1 4

現在のような金利情勢の下で、あなたのご家庭では、これまでに、貯蓄に関してどのような行動をとられましたか。(はいくつでも)

- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 少しでも利息・配当収入が増えるように、運用している貯蓄商品をより高利のものに預け替えた。 | 14.2 |
| 2 | 先行きの金利変化を予想して、短期(または長期)の貯蓄商品に預け替えた。 | 9.3 |
| 3 | 利息・配当収入が少なかったので、消費のために貯蓄を取り崩した。 | 13.7 |
| 4 | 貯蓄商品による運用を手控え、とりあえず手持ち資金として現金でもつことにした。 | 5.4 |
| 5 | とくに何もしなかった。 | 61.7 |
| 6 | その他 | 4.6 |

問 1 5

あなたのご家庭では、主取引金融機関を決める場合、どのような理由から選びますか。

(は3つまで)

- | | | |
|---|--------------------------------|------|
| 1 | 近所に店舗やATM(現金自動預け払い機)があり便利だから。 | 78.3 |
| 2 | 店舗網が全国的に展開されているから。 | 27.1 |
| 3 | 金融商品の品揃えが豊富で選択の幅が広いから。 | 2.7 |
| 4 | より収益性の高い金融商品を販売しているから。 | 3.6 |
| 5 | 金融アドバイザーとしての相談窓口が充実しているから。 | 5.0 |
| 6 | 経営が健全で信用できるから。 | 39.1 |
| 7 | 勧誘員が熱心で印象が良いから。 | 9.1 |
| 8 | テレビCM、ポスター、キャラクター商品などの印象が良いから。 | 1.3 |
| 9 | その他 | 11.2 |

問 1 6

(a) 預金者の保護を目的とした「預金保険制度」という制度があります。この制度によって、原則として1金融機関につき預金者1人当たり1,000万円までが保護されています。あなたはこの制度をご存じですか。(は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 1 | 2 | 3 |
| 内容まで知っている。 | 見聞きしたことはある。 | 全く知らない。 |
| 22.5 | 54.4 | 23.0 |

(b) 預金保険制度の保護の内容が、平成12年の預金保険法の改正によって変更されることになりました。

この改正では、特例として平成13年3月末まで預金の全額を保護することとされていたのが、平成14年3月末まで1年延長されたこと、流動性預金に限って全額保護の期間が平成15年3月末とされたこと、保護の範囲が原則「元本1,000万円」であったのが「その利息」も加えられたこと、などの変更がありました。あなたはこの変更をご存じですか。(は1つ)

1	2	3
変更された内容まで知っている。	変更されたことを見聞きしたことはある。	全く知らない。
7.4	37.7	54.6

(c) 証券投資家の保護を目的とした「投資者保護基金」という制度があります。同制度によって、顧客の預かり資産が正しく分別管理されていない場合等においても、原則として投資家1人当たり預かり資産1,000万円までが保護されます(13年3月末までは全額保護する仕組みがあります)。あなたはこの制度をご存じですか。(は1つ)

1	2	3
内容まで知っている。	見聞きしたことはある。	全く知らない。
3.3	25.6	70.9

(d) 保険契約者の保護を目的とした「保険契約者保護機構」という制度があります。同制度は、契約内容に応じ、責任準備金^(注)の一定割合を保護しています(13年3月末までは死亡保険金等を全額保護する仕組みがあります)。あなたはこの制度をご存じですか。(は1つ)

^(注)責任準備金とは、契約者が払い込んだ保険料から、保険金支払いに備えて保険会社が積み立てた積立金のことです。

1	2	3
内容まで知っている。	見聞きしたことはある。	全く知らない。
4.7	33.4	61.7

問17

(a) あなたは、ご自分の貯蓄などをより安全なものにするため、何かなさいましたか。

(はいいくつでも)

1 貯蓄商品の安全性に関する情報を収集した。	9.1
2 経営内容がより健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えた。	14.8
3 預金保険が適用される商品に預け替えた。	2.1
4 1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散した。	10.5
5 現金で持つことにした。	3.5
6 何もしていない。	66.8
7 その他	3.7

(b) また、今後、ご自分の貯蓄などをより安全なものにするため、何かなさりたいと思いますか。
(はいくつでも)

- | | |
|--|------|
| 1 貯蓄商品の安全性に関する情報を収集したいと思う。 | 27.2 |
| 2 経営内容がより健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えたいと思う。 | 26.1 |
| 3 預金保険が適用される商品に預け替えたいと思う。 | 12.3 |
| 4 1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散したいと思う。 | 19.8 |
| 5 現金で持ちたいと思う。 | 5.3 |
| 6 何もしないと思う。 | 38.2 |
| 7 その他 | 3.5 |

問18

金融商品の選択に関する「自己責任」という考え方について、どのように受け止めますか。
運用する金融商品(A～F)を具体的に考えて、もっとも近い考え方を選んでください。

- 1 自分で選んだ金融商品については、自分で責任を持つのは当然である。
- 2 どちらとも言えない。
- 3 自分で選んだ金融商品だから自分で責任を持てと言われても困る。

(はそれぞれ1つ)

	自分で責任を持つのは当然である	どちらとも言えない	自分で責任を持てと言われても困る
A 預金(外貨預金は除く)	29.8	25.1	43.7
B 外貨預金	42.7	41.2	12.3
C 株式	55.6	30.9	10.3
D 公社債投信(MMF、中国ファンド等)	36.4	44.3	15.6
E 保険(掛け捨て型を除く)	22.5	32.1	42.8
F 金融自由化の過程で開発された新しいタイプの金融商品(いわゆるハイテク商品やデリバティブ商品)	40.0	43.6	12.7

問19

あなたは、金融機関のサービスについて、現在不満に思っていたり、今後改善してほしいと期待しているものがありますか。(はいいくつでも)

- | | | |
|----|---|------|
| 1 | 新しい貯蓄商品やサービスの内容を、もっとわかり易く説明してほしい。 | 31.8 |
| 2 | 総合的な資金管理について、きめ細かいアドバイスがほしい。 | 16.6 |
| 3 | 機械化の進展に伴いおろそかになってきている顧客とのコミュニケーションを、もっと図ってほしい。 | 18.5 |
| 4 | 機械に弱い高齢者等が気軽に相談できる専門の相談窓口を、設置してほしい。 | 26.9 |
| 5 | ホームバンキングやホームトレードに関するサービスを、充実してほしい。 | 5.2 |
| 6 | 平日の窓口の営業終了時刻を、延長してほしい(例えば、現行の3時を5時に変更するなど)。 | 47.6 |
| 7 | 土・日・祭日にATM(現金自動預け払い機)の機能をフル稼働させるとともに、稼働時間帯も拡大してほしい。 | 45.9 |
| 8 | 窓口等での待ち時間を、もっと短くしてほしい。 | 31.5 |
| 9 | 景品(ティッシュペーパー、ラップ等)にコストをかけるよりも、預金金利や貸出金利の面で顧客に有利なレートサービスを、してほしい。 | 50.5 |
| 10 | 低利の個人ローン(教育ローン等)を、拡充してほしい。 | 22.6 |
| 11 | 融資にあたっては、担保物件が乏しくても、人物やプロジェクトの質を見極めながら、弾力的に対応してほしい。 | 15.6 |
| 12 | 金融機関の業務に限らず金融や税金など暮らしに密着した情報を、幅広く提供してほしい。 | 22.6 |
| 13 | 金融機関の経営内容(業務状況、財務内容、収益構造等)を、もっとわかりやすく開示してほしい。 | 28.2 |

問20

ビッグバンは、わが国における金融面での規制を国際的な水準にまで緩和していくことで、市場原理の働きを高め、自由かつ透明で信頼できる金融市場を目指す一連の改革です。このビッグバンについて、お尋ねします。

(a) あなたは、ビッグバンを知っていますか。(はい1つ)

1
知っている。
51.1
↓

2
知らない。
48.8
↓
問21へお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

(b) 今後、ビッグバンが進んでいくことによって、どんなことが予想されますか。(はい1つ)

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 金融機関の競争を通じて、日本経済が活性化するなど、わたしたちの生活に好ましい影響を与える。 | 28.7 |
| 2 | 金融機関の競争が激化した結果、金融機関の経営内容に格差が広がったり、金融商品が複雑になったりして、わたしたちの生活に負担がかかる。 | 40.3 |
| 3 | わたしたちの生活への影響はほとんどない。 | 11.7 |
| 4 | わからない。 | 19.1 |

問 2 1

(a) ここ数年、いくつかの金融機関の経営破綻がありました。あなたは何らかのかたちで、これに関わる経験をしましたか。あなたの経験として最も印象の強いものにつきお答えください

- (は1つ)
- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 取引中の金融機関の経営が破綻するという経験をした。 | 9.9 |
| 2 | 取引していた金融機関が破綻する直前に、取引を止めた。 | 2.6 |
| 3 | 自分は直接経験していないが、友人や知人が、取引していた金融機関が破綻する経験をした。 | 15.7 |
| 4 | 自分は経験していないし、知人や友人も経験していない。 | 70.6 |

(b) あなたが取引している民間金融機関の経営内容について、どのように感じていますか。

- (は1つ)
- | | | |
|---|-----------------------------------|------|
| 1 | 経営内容は健全だと思っているので、不安はない。 | 30.1 |
| 2 | 多少経営内容は悪化していても、経営破綻する不安はないと思っている。 | 40.8 |
| 3 | 経営内容が悪化し、経営破綻もあるのではと、不安に思っている。 | 19.0 |
| 4 | 民間金融機関との取引はないので関係ない。 | 7.9 |

(c) 金融機関の経営破綻が相次いだ時期がありましたが、これから1～2年の間の金融機関全般の状況についてはどのようにみていますか。(は1つ)

1	2	3
落ち着きを取り戻すとみている。	現状と変わらない状況が続くとみている。	さらに混乱するとみている。
18.3	61.4	18.4

(d) あなたは、ご自分が取引する民間金融機関の経営内容について調べたことがありますか。

- (は1つ)
- | | | |
|---|--|------|
| 1 | 経営内容を確認したことがある。 | 7.9 |
| 2 | 経営内容を確認したいと思っても、確認の方法がわからないので、確認していない。 | 31.5 |
| 3 | 経営内容を確認したいと思っても、経営に関する情報が十分ではないと思っているので、確認していない。 | 28.1 |
| 4 | 経営内容を確認しようとは思わない。 | 31.1 |

問 2 2

(a) あなたのご家庭では、買物代金、旅行代金、公共料金等家計支出の資金決済手段としてどのようなものを主に利用していますか。この1年間についてお答えください。(は2つまで)

1	2	3	4	5
現金	クレジットカード	デビットカード	口座振替	その他
87.7	20.1	0.2	70.5	0.6

(b) 現金については、資金決済額全体の何割程度を決済していますか。下表に数値をご記入ください。

現金決済金額の割合

	6
--	---

 割

(c) あなたのご家庭では、手持ち現金（銀行券および硬貨）の残高は平均してどのくらいありますか。

百万 十万 万円

	2	9
--	---	---

なお、ご家庭で事業を営まれている方は、上記の金額のうち、事業用の決済に使用している現金がどのくらいあるかをご記入ください。

百万 十万 万円

	7	2
--	---	---

問 2 3

(a) あなたの家計（家族全体）の過去 1 年間の収入・支出それぞれについて、下表の該当する欄に金額をご記入ください。

億 千万 百万 十万 万円

収入 (+)	年間手取り収入 税引後 (注)	a			5	5	7
	貯蓄金取り崩し額	b				4	1
	新規借入金額	c				4	1
	土地住宅売却金額	d				1	3
支出 (-)	年間貯蓄額	e				7	9
	年間借入金返済額	f				6	9
	うち住宅ローン返済額					4	6
	土地住宅購入費用	g				4	4
	消費支出 (a+b+c+d-e-f-g)					4	6

(注) 年間手取り収入とは、就業に伴う収入、年金、不動産賃貸収入、利息収入等の税引後収入。

(b) あなたの家計では、1年前と比べて現在の手取り収入はどうでしたか。(は1つ)

1
増えた。
13.4

2
変わらない。
45.1

3
減った。
41.0

(c) また、1年後の手取り収入をどうみていますか。(は1つ)

1
増えるとみている。
10.9

2
変わらない。
51.6

3
減るとみている。
37.0

問 2 4

あなたの家計では、過去 1 年間の消費支出をその前年と比べて増やしましたか、あるいは減らしましたか。(は 1 つ)

1 消費支出を増やした。 <u>22.1</u>	2 消費支出を変えていない。 <u>49.0</u>	3 消費支出を減らした。 <u>28.8</u>
↓	↓ 問 2 6 へお進みください。	↓

問 2 5

(前問で 1 と回答した人にお聞きします。)

(a) 次の選択肢の中から、消費支出を増やした主な理由を選んでください。

(は 3 つまで)

1	手取り収入が増えたから。	9.9
2	手取り収入は増えなかったが、先行きは増えていくとみているから。	4.5
3	1 ~ 2 年前よりも借入金の返済が進んで、消費にまわせる金額が増えたから。	5.8
4	物品などの購入にあたって、ローンが組みやすくなったから。	4.6
5	物やサービスの値段が安くなったから。	2.7
6	欲しいと感じる物やサービスが増えてきたから。	13.9
7	資産価格が上昇して、支出の増加に寛容になったから。	1.1
8	こどもの成長や家族構成員の変化に伴い、家族に要する費用が増えたから。	74.7
9	冠婚葬祭など付き合いごとが増えたから。	32.5
10	その他	15.6

(前問で 3 と回答した人にお聞きします。)

(b) 次の選択肢の中から、消費支出を減らした主な理由を選んでください。

(は 3 つまで)

1	手取り収入が減ったから。	71.4
2	手取り収入は減らなかったが、先行きは減っていくとみているから。	15.8
3	預貯金の利息や配当の金額が減ったから。	16.3
4	1 ~ 2 年前よりも借入金の返済が増えており、消費にまわせる金額が減ったから。	16.5
5	物品などの購入にあたって、ローンが組みにくくなったから。	3.5
6	物やサービスの値段が高くなったから。	13.2
7	欲しいと感じる物やサービスが減ってきたから。	12.2
8	資産価格が目減りして、支出の増加に慎重になったから。	9.2
9	こどもの成長や家族構成員の変化に伴い、家族に要する費用が減ったから。	16.8
10	今後の生活を展望して、貯蓄にまわす金額を増やしたから。	12.3
11	その他	8.5

問 2 6

あなたの家計では、今後 1 年間の消費支出を過去の 1 年間のそれと比べて増やしますか、あるいは減らしますか。(は 1 つ)

1 消費支出を増やす。 7.8	2 消費支出を変えない。 51.6	3 消費支出を減らす。 39.5
-----------------------	-------------------------	------------------------

問 2 7

あなたの家計では、現在、借入金はありますか。ただし、月賦払いの未払金やリボルビング方式^(注)借入れによる未払金は対象に含め、1～2か月後に決済するクレジットカード利用ツケ買いによる未払金は除きます。(は1つ)

^(注)リボルビング方式とは、あらかじめ設定した借入金額の利用限度枠内であれば何回でも利用でき、最初に決めた一定額を毎月、返済する借入方式のこと。

1
借入金がある。
43.8
↓

2
借入金がない。
55.9
↓
問30へお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

問 2 8

現在の借入金残高と借入先別内訳をそれぞれ下表にご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
現在の借入金残高合計		1	3	0	5
うち公的金融機関 ^(注1)			5	2	6
民間金融機関 ^(注2)			6	7	4
販売会社、クレジット会社等				2	4
貸金業者(消費者金融会社、質屋)					4
勤務先				4	7
親類、知人				2	3
その他					7

^(注1)住宅金融公庫、年金住宅福祉協会、国民生活金融公庫、郵便局等。

^(注2)銀行、信金、信組、労金、農漁協、保険会社等。

また、現在の借入金残高合計のうち、住宅ローン、教育ローン、フリーローン^(注)残高をそれぞれ下表にご記入ください。

^(注)フリーローンとは、借入金の資金用途が特定されていないローン(カードローンを含む)。

	億	千万	百万	十万	万円
現在の借入金残高合計		1	3	0	5
うち住宅ローン残高			9	2	6
教育ローン残高				1	3
フリーローン残高				7	1

→ 上記の合計の金額と一致

問29

あなたは、どのような目的で借入れを行いましたか。

次のうちから借入目的を選び、該当する番号に 印をつけてください。(は3つまで)

1 医療費や災害復旧資金にあてるため。	3.2
2 こどもの教育・結婚資金にあてるため。	11.7
3 住宅(土地を含む)の取得または増改築などの資金にあてるため。	63.4
4 日常の生活資金にあてるため。	11.6
5 耐久消費財(自動車、家具、家電等)の購入資金にあてるため。	23.5
6 旅行、レジャーの資金にあてるため。	2.2
7 株式等金融資産への投資資金にあてるため。	0.5
8 土地建物(マイホームは除く)等の実物資産への投資資金にあてるため。	6.6
9 相続税対策の資金にあてるため。	0.9
10 その他	12.3

問30

(a) あなたは、生活感覚として“経済的な豊かさ”と“心の豊かさ”について、どのように実感していますか。

それぞれ下表の各欄の番号に○印をつけてください。(はそれぞれ1つ)

	どちらかと言えば、 実感している	どちらかと言えば、 実感していない
経済的な豊かさ	31.8	66.9
心の豊かさ	52.6	46.2

(b) あなたは、“経済的な豊かさ”を実感するためには、次のうち何が大切だと思いますか。

(は2つまで)

1 マイホームなどの実物資産の取得	20.8	4 消費財購入やレジャー関連消費の充実	21.8
2 ある程度の額の金融資産の保有	50.1	5 その他	5.6
3 ある程度の額の年収の実現	62.8		

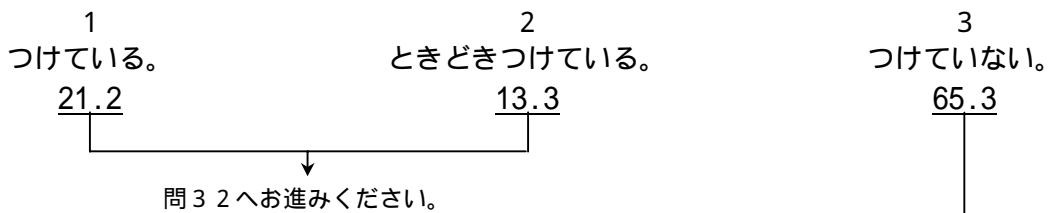
(c) また、“心の豊かさ”を実感するためには、次のうち何が大切だと思いますか。

(は3つまで)

1 経済的な豊かさ	48.4	6 将来の生活への安心感	38.0
2 趣味の充実	21.3	7 家族とのきずな	47.3
3 仕事の充実	17.1	8 人や社会への貢献	9.2
4 時間的な余裕	22.6	9 その他	1.4
5 健康	73.4		

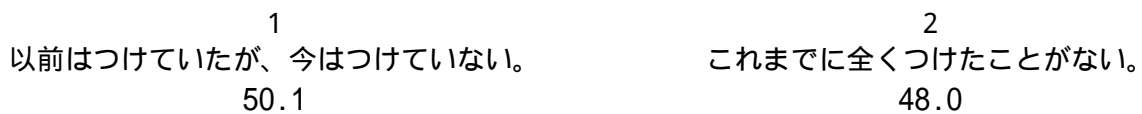
問3 1

- (a) 家計簿の記帳についてお尋ねします。
あなたは、家計簿をおつけになっていますか。(は1つ)



(前問で3と回答した人にお聞きします。)

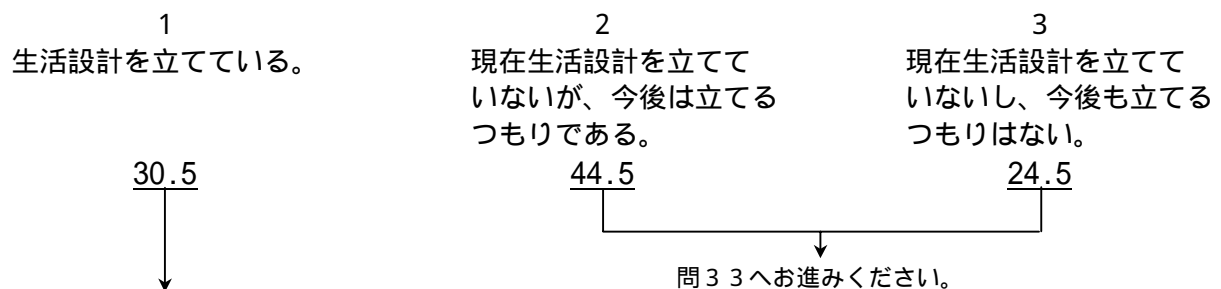
- (b) 次のうち該当する番号に 印をつけてください。(は1つ)



(全員にお聞きします。)

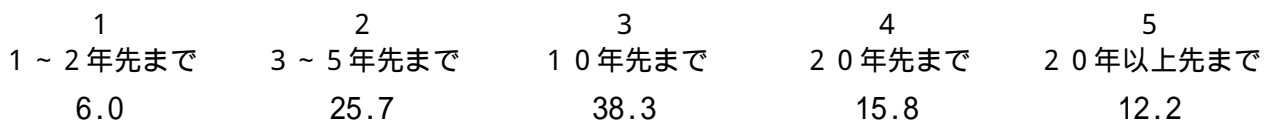
問3 2

- (a) あなたは、将来のことを考えて生活設計を立てていますか。(は1つ)

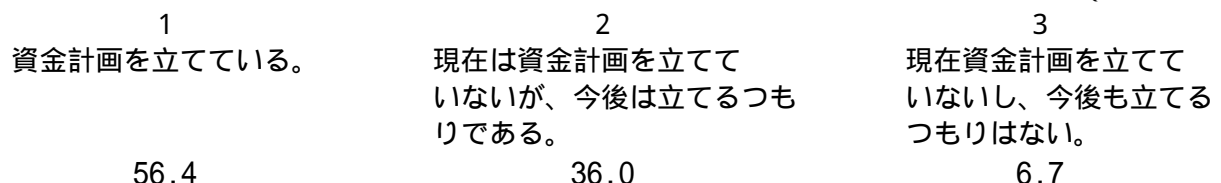


(前問で1と回答した人にお聞きします。)

- (b) 何年くらい先まで考えて生活設計を立てていますか。(は1つ)



- (c) あなたは、生活設計と一緒に、将来の必要となる資金を貯める運用計画まで立てていますか。
(は1つ)



問33

あなたのご家庭では、現在どのような住居にお住まいですか。(は1つ)

持ち家あり	1	ご自身が購入した家屋マンション	55.6	持ち家なし	3	同居している親または親族の家	4.1
	2	相続または贈与を受けた持家	21.3		4	民間の賃貸マンション・アパート、借家	11.7
					5	公団公営の賃貸アパート	2.8
					6	官舎、社宅	3.4
					7	間借、その他	0.6

問36、問37へお進みください。

(前問で3～7と回答した人にお聞きします。)

問34

マイホームを取得していないご家庭にお尋ねします。

あなたのご家庭では、世帯主の方が何歳くらいの時にマイホームを取得する予定ですか。(は1つ)

1	20歳代	0.4
2	30歳代	10.7
3	40歳代	12.6
4	50歳代	5.4
5	60歳以上	1.6
6	親からの相続等によるので、いつになるかわからない。	18.4
7	マイホームの取得については目下のところ考えていない。	30.7
8	将来にわたりマイホームを取得する考えはない。	17.8

問35

近くマイホームを取得する予定があるご家庭にお尋ねします。

あなたのご家庭がマイホームを取得するのに必要な資金の総額はどのくらいですか。また、その資金をどのように調達する予定ですか。

それぞれについて、下表に金額をご記入ください。なお、買い換えの場合は、新旧物件の価格差ではなく、新規取得物件の方の総額をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
必要資金総額		3	4	7	2
うち自己資金		1	0	7	7
借入金		2	3	9	5

(世帯主の年齢が満60歳未満のご家庭にお聞きします。)

問36

あなたのご家庭では、老後の生活費として、毎月最低どれくらい必要と思いますか(現在の物価水準を基準にお答えください)。

百万 十万 万円

	2	7
--	---	---

また、老後の生活資金として、世帯主の年金支給時に準備しておけばよい貯蓄残高は、最低どれくらいだとお考えですか。

億 千万 百万 十万 万円

老後の生活資金		2	0	9	9
---------	--	---	---	---	---

(世帯主の年齢が満60歳以上のご家庭にお聞きします。)

問37

あなたのご家庭では、生活費として、毎月最低どれくらい必要ですか。

百万 十万 万円

	2	7
--	---	---

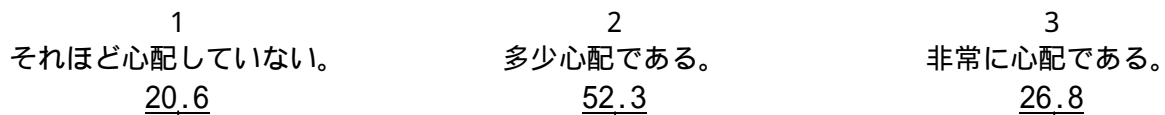
(全員にお聞きします。)

問38

(a) 現在の暮らし向きについて、どのようにお考えですか。(は1つ)

- | | |
|---------------------------------|------|
| 1 家計にそこそこゆとりがある。 | 11.8 |
| 2 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている。 | 52.7 |
| 3 家計にゆとりがなく、やや苦しい。 | 24.1 |
| 4 家計のやりくりが苦しい。 | 10.9 |

(b) また、老後の暮らし（高齢者は、今後の暮らし）について、経済面でどのようになるとお考えですか。（ は1つ）



（前問で1と回答した人にお聞きします。）

（前問で2または3と回答した人にお聞きします。）

問39

それほど心配していない理由は、次のうちどれですか。（ はいくつでも）

1	十分な貯蓄があるから。	11.1
2	退職一時金があるから。	20.3
3	年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険があるから。	67.0
4	生活の見通しが立たないほど物価が上昇するとは考えられないから。	23.1
5	十分な貯蓄はないが、老後に備えて着々と準備（貯蓄など）しているから。	33.4
6	再就職により収入が得られる見込みがあるから。	4.7
7	不動産収入（家賃、地代等）が見込めるから。	11.6
8	こどもなどからの援助が期待できるから。	5.9
9	親などからの遺産が見込まれるから。	2.9
10	その他	11.0

問40

多少心配である、非常に心配である理由は次のうちどれですか。（ はいくつでも）

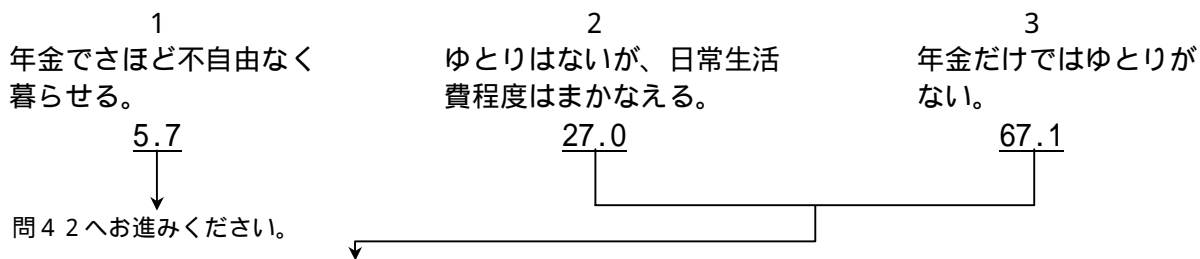
1	十分な貯蓄がないから。	72.2
2	退職一時金が十分ではないから。	27.2
3	年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険が十分ではないから。	69.4
4	生活の見通しが立たないほど物価が上昇することがあり得ると考えられるから。	19.7
5	現在の生活にゆとりがなく、老後に備えて準備（貯蓄など）していないから。	39.3
6	再就職により収入が得られる見込みがないから。	15.5
7	家賃の上昇により生活が苦しくなると見込まれるから。	2.5
8	マイホームを取得できる見込みがないから。	3.1
9	こどもなどからの援助が期待できないから。	17.8
10	その他	6.9

(全員にお聞きします。)

問4 1

年金について、お聞きします。

(a) 年金(公的年金・企業年金を含み、個人年金は除きます)で老後の必要資金をまかなえると思いますか。(は1つ)



(前問で2または3と回答した人にお聞きします。)

(b) その理由についてどのようにお考えですか。主な理由をお答えください。(は2つまで)

1 物価上昇等により費用が増えていくとみているから。	30.5
2 年金が支給される年令が引き上げられるとみているから。	37.6
3 年金が支給される金額が切り下げられるとみているから。	52.5
4 高齢者への医療・介護費用の個人負担が増えると思ているから。	47.5
5 その他	7.0

(c) 不足分をどうやってまかなおうとお考えですか(または、現在まかっていますか)。主な対応をお答えください。(は2つまで)

1 年金支給後も働いてまかなうつもり。	40.6	4 年金支給後の生活水準を引き下げるとつもり。	31.7
2 貯蓄でまかなうつもり。	34.9	5 まだ、先のことなので考えていない。	17.4
3 こどもからの援助でまかなうつもり。	3.5	6 その他	6.8

(世帯主の年令が満60歳以上のご家庭にお聞きします。)

問4 2

現在の生活費は、どのような収入源によっていますか。(は3つまで)

1 就業による収入	47.5	6 不動産収入(家賃、地代等)	8.5
2 公的年金	75.4	7 こどもなどからの援助	6.7
3 企業年金、個人年金、保険金	20.8	8 国や市町村などからの公的援助	0.6
4 貯蓄の取り崩し	21.7	9 その他	4.8
5 利子・配当所得	2.9		

(お子さんがいるご家庭にお聞きします。)

問43

あなたのご家庭では、お子さんに渡しているこづかいは、月平均で1人当たりどのくらいの金額ですか。

学齢区分ごとに、下表に金額をご記入ください。

	十	万	千	百	十	円
小学生(1・2年)			1	0	6	4
小学生(3・4年)				9	7	7
小学生(5・6年)			1	4	2	3
中学生			2	6	6	0
高校生			6	4	4	4

(全員にお聞きします。)

問44

以下の(1)～(5)に挙げた事柄について、ご自分はAとBのどちらに近いですか。

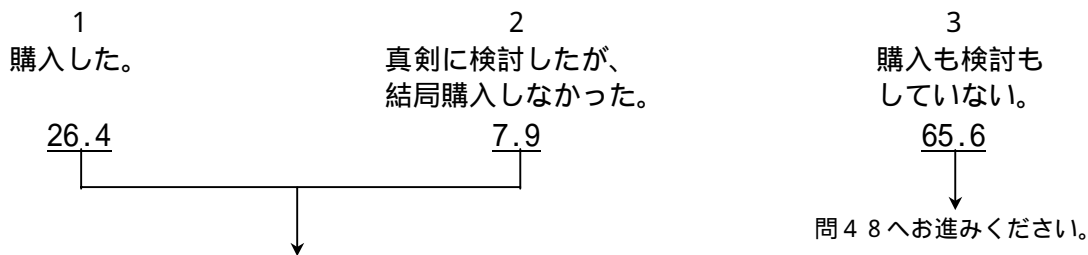
(はそれぞれ1つ)

		A に近い	ど 言 ち え ら な い も	B に近い			
		A		B			
(1)	金融商品について知識があると思う。	8.7	36.6	54.4	金融商品についてほとんど知識がないと思う。		
(2)	いろいろな金融商品の探し方を知っている。	7.0	31.0	61.4	いろいろな金融商品の探し方を知らない。		
(3)	金融商品に関する説明パンフレットを理解するのは簡単である。	8.1	40.5	51.1	金融商品に関する説明パンフレットを理解するのは難しい。		
(4)	どの金融商品が自分に適しているかを判断することは簡単である。	11.1	40.2	48.1	どの金融商品が自分に適しているかを判断することは難しい。		
(5)	金融機関の担当者等、専門家にアドバイスを求める前に、どの金融商品が適しているかを自分で考えようとする。	24.3	45.8	29.4	どの金融商品が自分に適しているかといった決定は、金融機関の担当者等、専門家に任せる。		

(全員にお聞きします。)

問45

(a) 過去2年間に新たに金融商品(預金、株式、保険等)を購入したり、あるいは真剣に購入を検討したりしましたか。(は1つ)



(前問(a)で1または2と回答した方にお聞きします。以下問47までお答えください。)

(b) 購入または購入を真剣に検討した金融商品のうち、主なものは次のうちどれですか。(は1つ)

1 預貯金(郵便貯金を除く)	15.6	8 株式	19.3
2 郵便貯金(簡保は除く)	10.8	9 株式投資信託	4.1
3 金銭信託・貸付信託	0.8	10 公社債投資信託(MMFなど)	4.1
4 生命保険・簡易保険	27.1	11 財形貯蓄	1.2
5 損害保険	2.5	12 外貨建金融商品(外貨預金、 外債、外貨建投資信託など)	5.4
6 個人年金保険	5.4	13 その他(具体的に)	0.6
7 債券(国債、社債など)	2.7		

(c) 前問でお答えになったものについて、購入ないし購入を検討したきっかけは何ですか。(はいくつでも)

1 金融機関の担当者等の勧め。	29.6
2 友人、家族の勧め。	12.1
3 取扱っている金融機関が増えて買いやすくなったから。	3.0
4 手数料などの取引コストが低下したから。	2.4
5 インターネットで気軽にできるから。	2.5
6 親しみのある金融商品だったから。	9.2
7 テレビ、新聞、雑誌等で取り上げられていたから。	8.4
8 病気やケガ等の突然の出費に備えて。	19.4
9 結婚、出産、住宅取得、老後(退職)等のイベントに備えて。	8.1
10 定期的な貯蓄の見直し時期だったから。	17.3
11 余裕資金ができたから。	13.7
12 何となく。	8.3
13 その他	12.1

(d) (b)で選んだ金融商品について購入ないし検討を行う際、入手した情報や自分の判断について、あなたはどのように感じましたか。(1)～(3)のそれぞれについてお答えください。

(はそれぞれ1つ)

		ど言思 ちえう らば かそ とう	ど言 ちえ らな とい も	ど言は ちえ思 らばわ かそな とうい
(1)	購入、検討に際して入手または提供された情報に満足している。(情報の質)	33.5	53.7	11.6
(2)	正しい判断を行うために必要な情報は全て入手できた。(情報量)	18.2	58.9	21.2
(3)	購入した、あるいは、検討した結果、購入しなかったという判断は正しかった。	31.8	55.8	8.7

問46

(a) 問45(b)で選んだ金融商品(購入した、あるいは真剣に検討した金融商品)について、情報を集めるために、どの手段をよく利用しましたか。(はいくつでも)

1	金融機関の窓口や営業担当者等の対面での説明	48.4
2	金融機関の電話による説明(テレフォンサービス)	6.2
3	金融機関が作成した商品説明のパンフレット	30.1
4	新聞記事(広告を除く)	16.5
5	雑誌記事(広告を除く)	7.6
6	テレビ番組(広告を除く)	3.9
7	新聞、雑誌、テレビの広告	7.6
8	インターネット	4.8
9	家族、友人のアドバイス	16.5
10	特定の金融機関に所属しない資産運用専門家のアドバイス	2.2
11	その他	8.7

(前問(a)で1、2、10と回答した方にお聞きします。)

(b) 受けた説明やアドバイスに対して、どのような対応を取りましたか。(は1つ)

1	説明やアドバイスを受けただけでなく、自分自身で別途の情報収集も行った。	31.0
2	説明やアドバイスをそのまま信用した。	58.5
3	説明やアドバイスには頼っていない。	10.3

(問45(a)で1または2と回答した方にお聞きします。)

問47

問45(a)で選んだ金融商品(購入した、あるいは真剣に検討した金融商品)について、金融商品の購入ないし購入を検討した際、金融商品の比較・検討についてのあなたの態度に最も当てはまるものはどれですか。(は1つ)

1	1つの金融機関の商品についてのみ検討した。	58.0
2	2つの金融機関の商品を比較した。	23.1
3	3つ以上の金融機関の商品を比較した。	12.5

(問45(a)で3と回答した方にお聞きします。)

問48

問45(a)で、「過去2年間、新たに金融商品について購入も検討もしていない」と答えた方は、以下の(1)～(10)に挙げた事柄に、自分があてはまると思われますか。(はそれぞれ1つ)

		ど言思 ちえう らば かそ とう	ど言は ちえ思 らばわ かそな とうい
(1)	適当な金融商品を選択するための十分な知識があるとは思わない。	73.1	23.5
(2)	どの金融商品で資金運用すべきかを決定するためには、何から始めれば良いのか分からない。	68.1	28.3
(3)	新しい金融商品がいろいろ出てきて良く分からない。	72.7	23.3
(4)	金融に関する計画を立てる時間的余裕がない。	55.9	39.8
(5)	まだ若いので、もう少し年をとったら金融に関する計画を検討したい。	28.7	66.2
(6)	そのうち貯蓄をしたいとは考えている。	67.8	28.0
(7)	貯蓄について考えるのは、面倒くさい。	30.1	65.6
(8)	遠い将来に備えるよりも今お金を使いたい。	26.2	69.6
(9)	現在既に十分な貯蓄があるのでこれ以上必要ない。	6.6	89.2
(10)	お金に余裕がない。	76.3	21.1

(全員にお聞きします。)

問49

金融商品や金融に関する情報源として望ましい媒体は何でしょうか。(は3つまで)

1	金融機関の窓口や営業担当者等の対面での説明	54.9
2	金融機関の電話による説明(テレフォンサービス)	4.6
3	金融機関が作成した商品説明のパンフレット	38.3
4	新聞記事(広告を除く)	27.2
5	雑誌記事(広告を除く)	6.7
6	テレビ番組(広告を除く)	17.9
7	新聞、雑誌、テレビの広告	16.9
8	インターネット	10.6
9	家族、友人のアドバイス	16.5
10	特定の金融機関に所属しない資産運用専門家のアドバイス	20.6
11	その他	4.6

あなたのご家庭の状況に関するご質問

(a) あなたのご家庭の世帯人数は、自分も含めて何人ですか。(は1つ)

1	2	3	4	5	6
2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
24.9	23.3	26.2	15.1	6.6	3.9

(b) 世帯主の方は、満年齢で何歳ですか。(は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳以上
2.9	14.2	21.1	27.0	12.8	10.7	11.3

(c) 世帯主の方のご職業は、次のうちどれにあたりますか。(は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
農林漁業者	自営商工 サービス業主	事務系職員	労務系職員	管理職	自由業	その他
4.8	16.6	14.2	16.6	13.6	3.6	29.9

(d) ご家族の就業状況は、次のうちどれにあたりますか。(は1つ)

1	世帯主およびその家族ともに働いていない。	11.4
2	世帯主のみが働いている。	33.0
3	世帯主とその配偶者が働いている。	36.2
4	その他	19.2

(e) あなたのご家庭では、インターネットをお使いですか。(は1つ)

1	よく使っている。	10.8
2	たまに使っている。	15.1
3	今まで使ったことはないが、近々使おうと考えている。	30.6
4	使おうとは思わない。	43.1